

#### 4) 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況

##### (1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.1.3-37 に示した。

表 6.1.3-37 調査期間一覧（平成 30 年度）

地区/季節	春季	夏季	秋季	冬季
G 地区	平成 30 年 6 月 2、4、5 日	平成 30 年 9 月 18、27、28 日	平成 30 年 11 月 2、6、7 日	平成 31 年 1 月 17～19 日
G 進入路	平成 30 年 6 月 2 日	平成 30 年 9 月 4 日	平成 30 年 10 月 22 日	平成 31 年 2 月 1 日
H 地区	平成 30 年 6 月 6～8 日	平成 30 年 9 月 18～20 日	平成 30 年 11 月 1、2 日	平成 31 年 1 月 23～25 日
N-1 地区	平成 30 年 5 月 24、25、30、31 日、6 月 1 日	平成 30 年 9 月 7、8、11、12、14 日	平成 30 年 10 月 22、27 日	平成 31 年 2 月 12 日
N-4 地区	平成 30 年 4 月 23～26 日、5 月 8～10 日	平成 30 年 7 月 17～19、25～27 日	-	-

注) N-4 地区は、夏季で調査を終了した。

##### (2) 調査方法

早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況は、マント群落・ソダ群落形成地（樹木剪定及びリュウキュウチク植栽地）において、調査を実施した。調査は、各着陸帯の概ね東・西・南・北側に設けた代表枠 22 箇所、G 進入路の 6 箇所、計 28 箇所で行った。

##### (3) 調査地点

調査地点は、図 6.1.3-56～図 6.1.3-60 に示した。

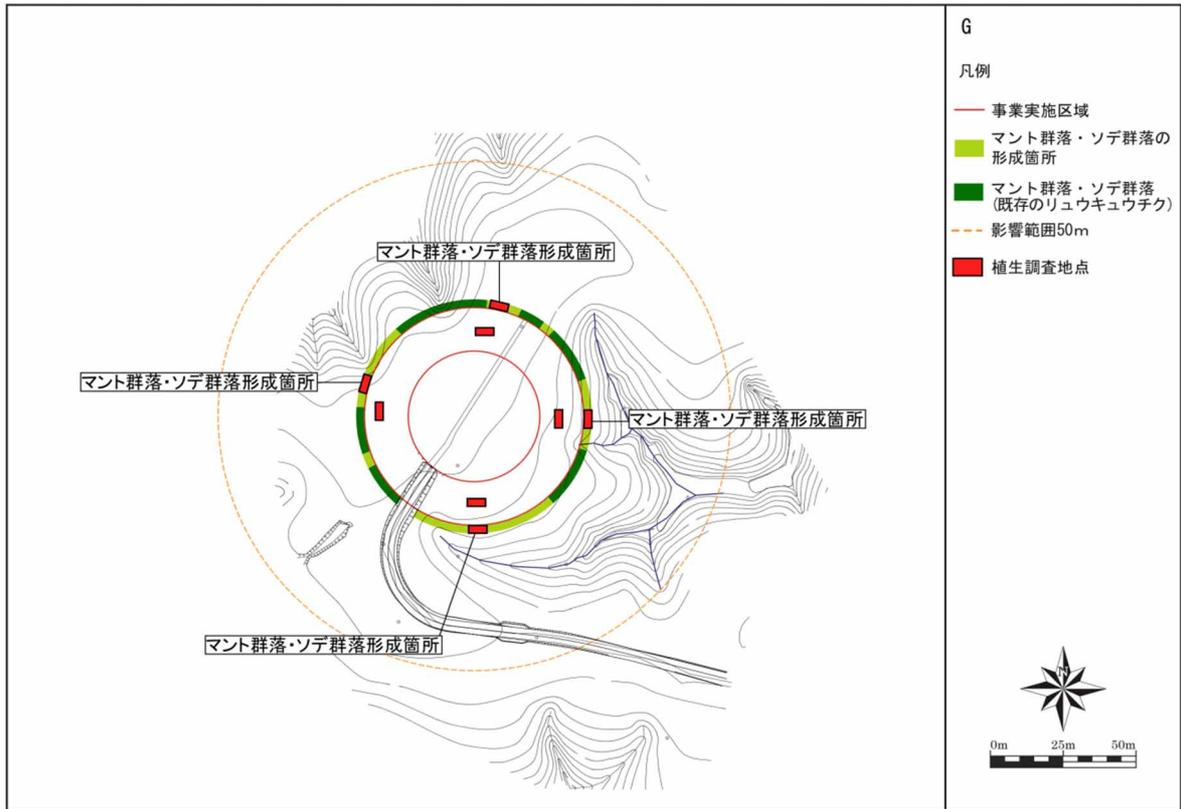


図 6.1.3-56 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (G)

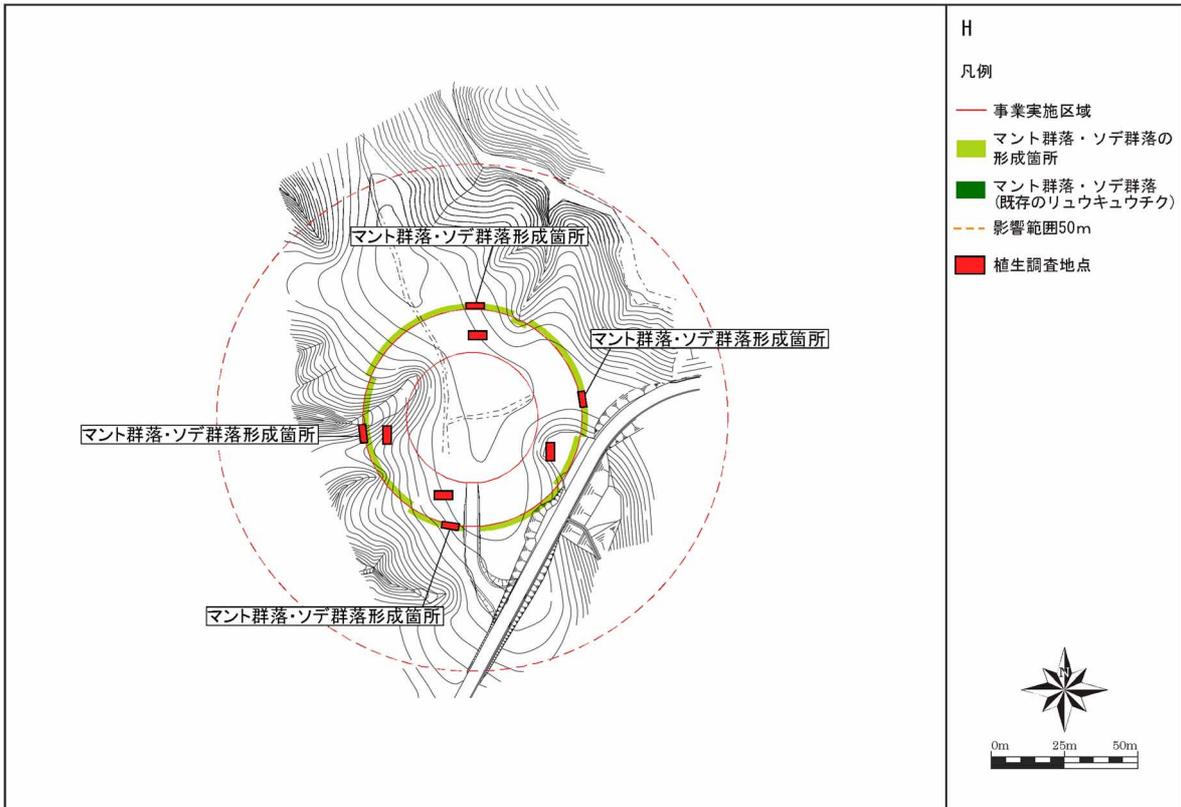


図 6.1.3-57 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (H)

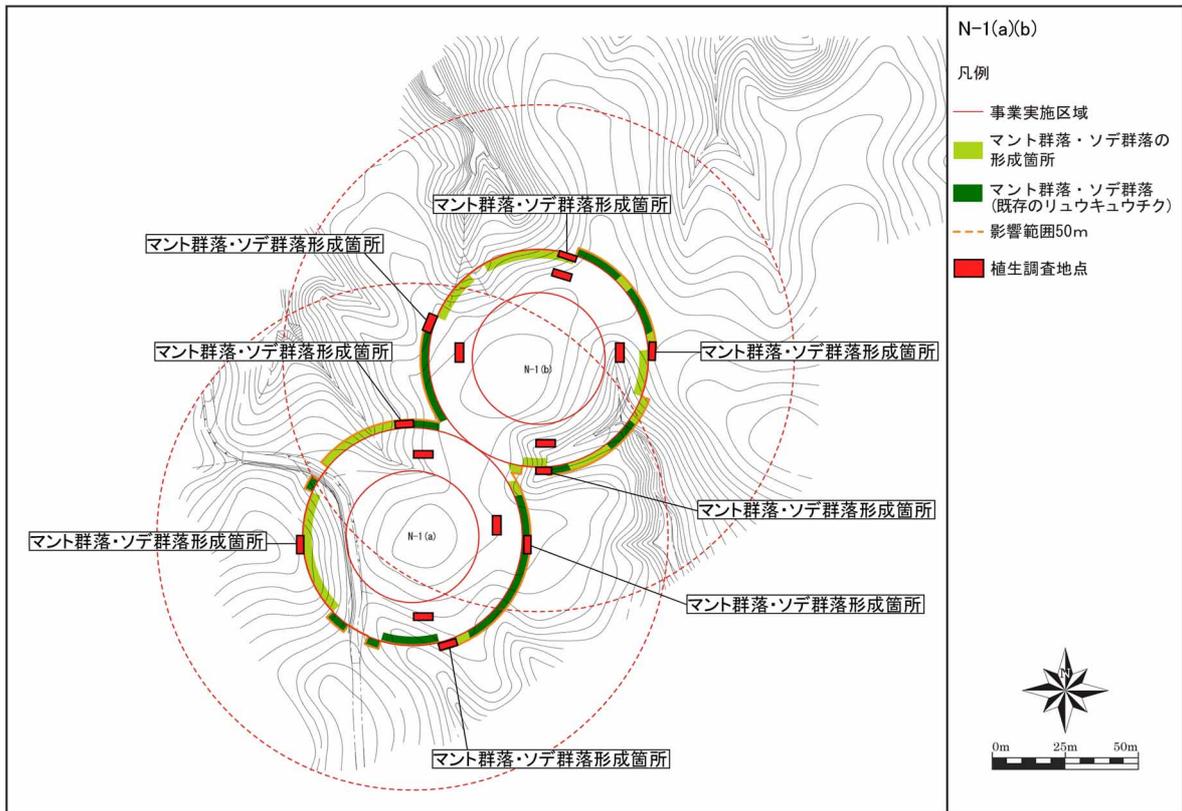


図 6.1.3-58 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (N-1)

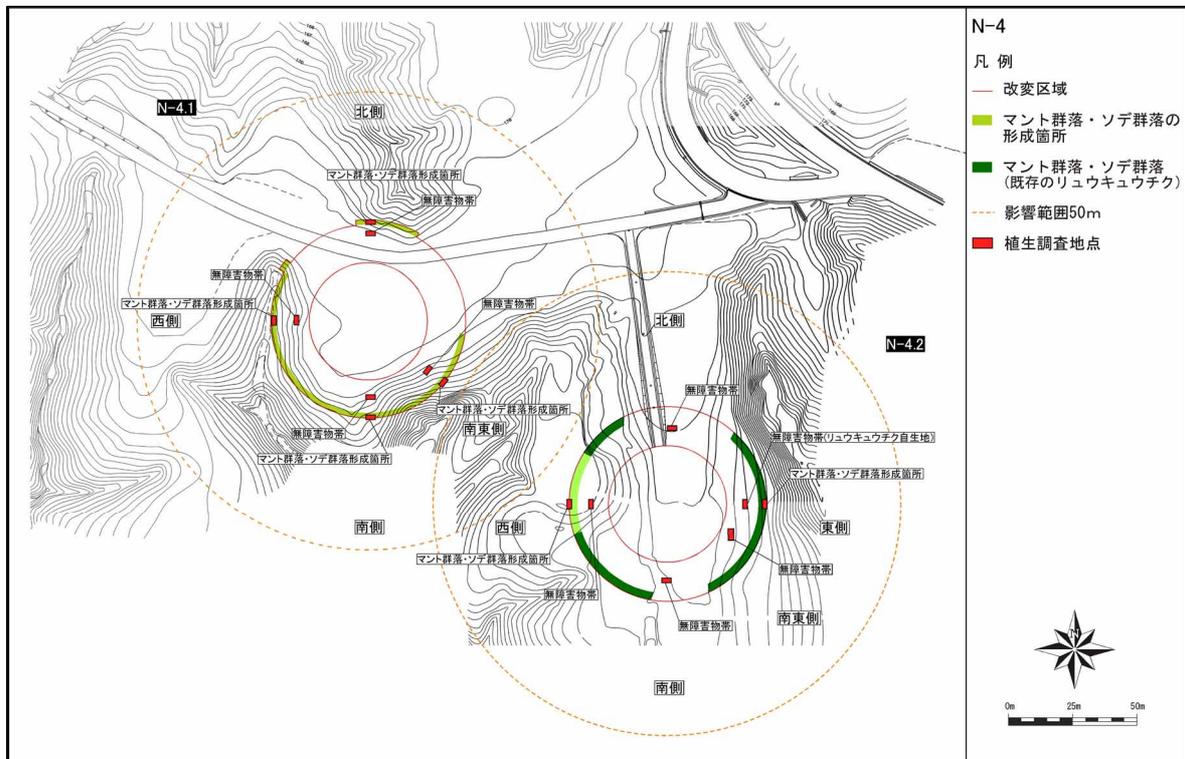


図 6.1.3-59 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (N-4)

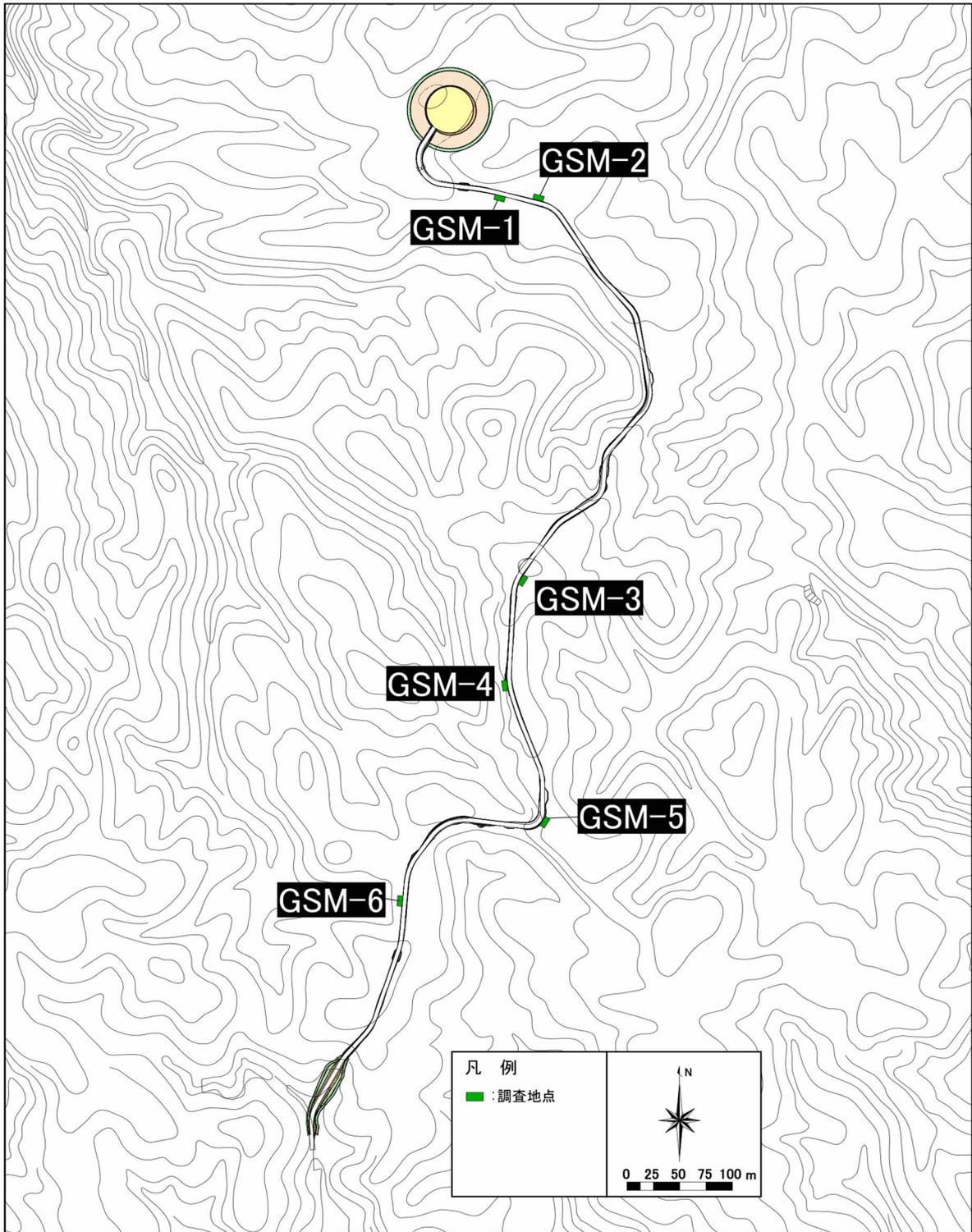


図 6.1.3-60 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (G 進入路)

(4) 調査結果

a) G 地区

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-38 に、調査地の状況を図 6.1.3-61 に示した。

全4箇所において、樹高2.0~4.5mの低木層、草本層の2階層に分化していた。種数は12~37種の生育を確認した。

低木層は、樹高2.0~4.5m、植被率5~45%、出現種数1~10種であった。

草本層は、草丈0.4~1.3m、植被率20~40%、出現種数12~36種であった。

各地点とも、マント群落・ソデ群落の形成に至っていない。

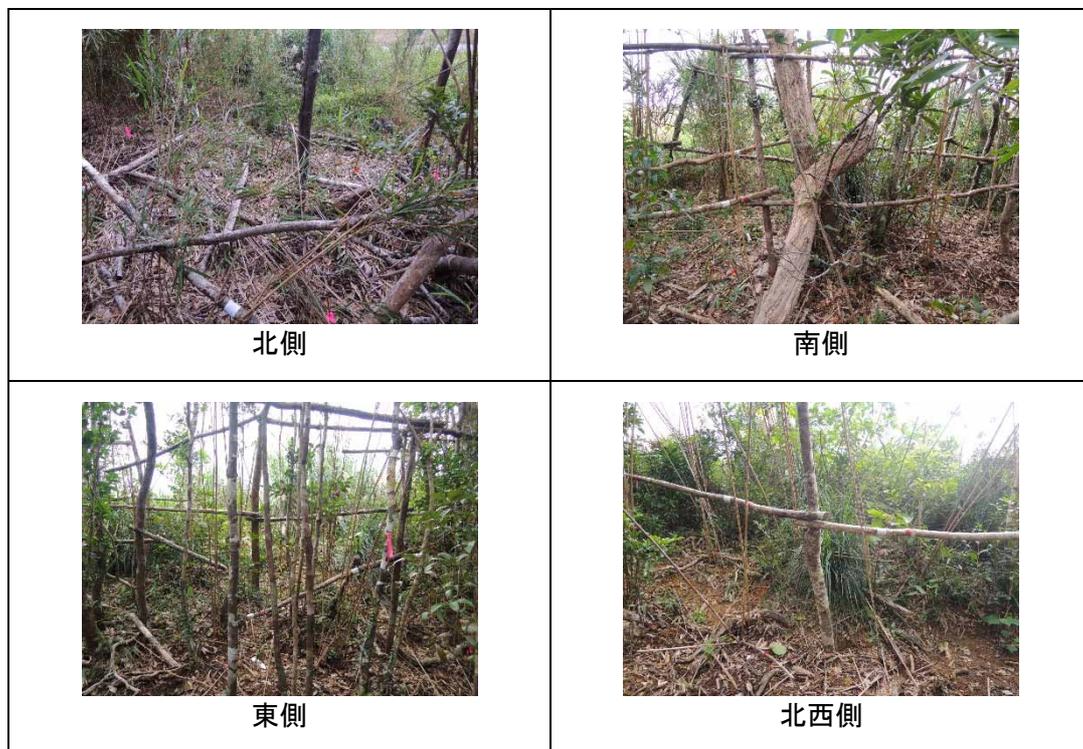


図 6.1.3-61 マント群落・ソデ群落の調査地状況(G)平成30年度冬季

表 6.1.3-38(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G)

調査年月	G マント群落・ソデ群落形成地																出現回数
	北側				南側				東側				北西側				
	H30年度				H30年度				H30年度				H30年度				
	6/2	9/18	11/2	1/19	6/2	9/18	11/2	1/19	6/2	9/18	11/2	1/19	6/2	9/18	11/2	1/19	
方位	-	-	-	-	-	-	-	-	E	E	E	E	NW	NW	NW	NW	
傾斜角度 (°)	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5	5	10	10	10	10	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	1.5×3	1.5×3	1.5×3	1.5×3	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	
低木層(S)の高さ (m)	4.0	4.0	2.5	2.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.0	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	5	5	5	5	20	20	20	20	35	40	40	45	10	15	20	20	
低木層(S)の出現数 (種)	1	1	1	1	5	6	6	7	9	9	6	6	6	7	9	10	
草本層(H)の高さ (m)	0.8	0.8	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	0.4	0.6	
草本層(H)の植被率 (%)	20	25	20	25	40	40	40	40	40	40	40	40	30	35	35	40	
草本層(H)の出現数 (種)	12	15	14	16	27	25	26	25	24	28	27	28	32	34	33	36	
出現種数 (種)	12	15	14	16	27	25	26	25	28	31	30	31	34	36	33	37	
低木層 (S)																	
S.1 アデク					1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	+	+	+	+	12
S.2 リュウキュウチク	1・1	1・1	1・1	1・1	+	+	+	+									8
S.3 リュウキュウチク (移植株)	++2	++2			++2	++2			++2	++2			1・2	++2			8
S.4 スダジイ(イタジイ)					1・1	1・1	1・1	1・1					+	+	1・1	1・1	8
S.5 イスノキ									1・2	1・2	1・2	1・2	+	+	++2	++2	8
S.6 シラタマカズラ						+	+	+	+	+	+	+					7
S.7 ハナガサノキ								+	+	+				+		+	5
S.8 カクレミノ					1・1	1・1	1・1	1・1									4
S.9 リュウキュウテイカズラ					+	+	+	+									4
S.10 タブノキ									1・1	1・1	1・1	1・1					4
S.11 ツゲモチ									1・1	1・1	1・1	1・1					4
S.12 モッコク									+	+	1・1	1・1					4
S.13 シマミサオノキ													1・2	1・2	1・2	1・2	4
S.14 アカメガシワ													1・2	1・2	1・2	1・2	4
S.15 リュウキュウモチ									+	+							2
S.16 シシアクチ															+	+	2
S.17 ナカハラクロキ															+	+	2
S.18 ナンバンアワブキ															+	+	2
S.19 ヒメユズリハ															+	+	2
草本層 (H)																	
H.1 ササクサ	1・2	1・2	1・2	1・2	3・3	3・3	3・3	3・3	3・3	3・3	3・3	3・3	2・2	2・2	2・2	2・2	16
H.2 スダジイ(イタジイ)	1・2	1・2	++2	1・2	++2	++2	++2	++2	++2	++2	++2	++2	1・2	1・2	1・2	1・2	16
H.3 シバヤブニッケイ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	16
H.4 シンエダウチホングウシダ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	16
H.5 コバンモチ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	16
H.6 ヤマヒハツ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	16
H.7 モクレイシ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	15
H.8 クロガヤ		+	+	+	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	2・2	15
H.9 シラタマカズラ					++2	++2	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	13
H.10 ヒメユズリハ	++2	++2	+	+					+	+	+	+	++2	++2	+	+	12
H.11 ササバサンキライ	+	+	+	+	+	+	+	+							+	+	12
H.12 シロダモ	+	+	+	+					+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.13 イスノキ					+	+	+	+	1・2	1・2	1・2	1・2	+	+	+	+	12
H.14 タイミンタチバナ					+	+	+	+	++2	++2	++2	++2	++2	++2	+	+	12
H.15 アオバナハイノキ					+	+	+	+	++2	+	+	+	++2	++2	++2	++2	12
H.16 カクレミノ					+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.17 ハナガサノキ					+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.18 タブノキ					+	+	+	+	++2	++2	+	+	+	+			11
H.19 シマミサオノキ		+	+	+	+				+	+	+	+			+	+	10
H.20 ムッチャガラ					+	+	+	+	+	+	+	+		+		+	10
H.21 リュウキュウテイカズラ		+			+	+	+	+	+	+		+				+	9
H.22 アデク					+	+	+	+					+	+	+	+	9
H.23 シシアクチ									+	+	+	+	1・2	1・2	1・2	1・2	9
H.24 リュウキュウチク	+	+	+	++2	+	+	+	+									8
H.25 シロノセンダングサ				+	+	+	+	+					+	+	+	+	8

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。  
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かべつ状に分布, 4: かべつ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布



## (b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南側、東側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.1.3-39 に、調査地の状況を図 6.1.3-62 に示した。

北側は、草丈0.4~0.6m、植被率80~95%、出現種6~12種であった。芝張りされた草本類のシバが優占していた。

南側は、低木層が高さ1.2m、植被率5%、出現種1種、草丈0.3~0.5m、植被率80~95%、出現種11~14種であった。芝張りされた草本類のシバが優占していた。

東側は、草丈0.5~0.6m、植被率85~100%、出現種8~18種であった。芝張りされた草本類のシバ及びギョウギシバが優占していた。

西側は、低木層が高さ1.3m、植被率3~5%、出現種1種、草本層が高さ0.4~0.6m、植被率95~100%、出現種7~9種であった。低木層にリュウキュウチクの生育が確認されたほか、草本層は芝張りされた草本類のシバ及びギョウギシバが優占していた。



図 6.1.3-62 無障害物帯の調査地状況(G) 平成30年度冬季

表 6.1.3-39 無障害物帯形成地の植生調査結果(G)

G 無障害物帯	北側				南側				東側				西側				出現回数
	H30年度				H30年度				H30年度				H30年度				
	6/2	9/18	11/2	1/19	6/2	9/18	11/2	1/19	6/2	9/18	11/2	1/19	6/2	9/18	11/1	1/19	
調査年月日																	
方位	-																
傾斜角度 (°)	-																
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	
低木層(S)の高さ (m)	-	-	-	-	1.2	1.2	1.2	1.2	-	-	-	-	1.3	1.3	1.3	1.3	
低木層(S)の植被率 (%)	-	-	-	-	5	5	5	5	-	-	-	-	3	3	5	5	
低木層(S)の出現数 (種)	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	
草本層(H)の高さ (m)	0.4	0.6	0.6	0.6	0.3	0.3	0.3	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.4	0.6	0.6	0.6	
草本層(H)の植被率 (%)	80	95	95	95	80	80	95	95	85	95	100	100	95	100	100	100	
草本層(H)の出現数 (種)	12	7	6	6	14	11	14	14	18	8	10	8	10	9	8	7	
出現種数 (種)	12	7	6	6	14	11	14	14	18	8	10	8	10	9	8	8	
低木層 (S)																	
S. 1 リュウキュウチク					1・1	1・2	1・2	1・2					1・1	1・1	1・1	1・1	8
草本層 (H)																	
H. 1 シバ	3・4	3・4	4・4	4・5	5・5	5・5	5・5	5・5	3・3	4・4	4・4	5・5	4・4	5・5	5・5	5・5	16
H. 2 ギョウギシバ	+2	+2	+2	+	1・2	+2	+2	+	3・4	2・3	2・3	1・2	2・2	1・2	+2	+2	16
H. 3 シロノセンダングサ	3・3	4・4	3・4	3・3	+	+	+	+2	1・1	3・3	1・2	1・2	2・2	3・3	2・3	2・3	15
H. 4 チガヤ	+	1・2	2・2	2・2	+				+	1・1	3・3	3・3	+	1・2	3・3	3・3	13
H. 5 ダンドボロギク	+				1・2	+		+	+2	+2	+	+	1・2				9
H. 6 クロガヤ	+2	+2	+2	+2				+						1・1	1・1	1・1	8
H. 7 オオアブラガヤ	+								+				+	+	+	+	6
H. 8 ベニバナボロギク	+2				1・2				+				1・2	1・2			5
H. 9 ササクサ	+	+	+2	+												+	5
H. 10 ホウキギク						+	+	+			+	+					5
H. 11 オニタビラコ							+	+	+2	+	+						5
H. 12 ササバサンキライ		+							+	+	+						4
H. 13 ヒナギキョウ					+2				+				+	+			4
H. 14 リュウキュウチク					+	+	+	+									4
H. 15 オキナワサルトリイバラ					+	+	+	+									4
H. 16 ナガバカニクサ					+	+	+	+									4
H. 17 タチスズメノヒエ						+	+						1・1		+		4
H. 18 キバナニワゼキショウ	+				+2				+								3
H. 19 ニワゼキショウ					+		+	+									3
H. 20 カタバミ					+		+	+									3
H. 21 ヒメブタナ					+				+	+							3
H. 22 アキノゲシ						+	+	+									3
H. 23 ヒメスイバ									+2		+2	+2					3
H. 24 タイワンハチジョウナ	+								+								2
H. 25 オオアレチノギク							+	+									2
H. 26 マツバゼリ									+	+							2
H. 27 イヌムギ	+																1
H. 28 チチコグサ					+												1
H. 29 オガサワラスズメノヒエ						+											1
H. 30 ハスノハカズラ							+										1
H. 31 キク sp.									+								1
H. 32 コマツヨイグサ									+								1
H. 33 ツメクサ									+								1
H. 34 ホシダ											+						1

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
群度→5: かべつ状に分布, 4: かべつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

## b) G 進入路

### (a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-40 に、調査地の状況を図 6.1.3-63 に示した。

GSM-1 及び GSM-3 においては、樹高 6.0～8.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に分化しているほか、GSM-2 及び GSM-4～GSM-6 においては、樹高 1.5～4.5m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。

種数は 9～24 種の生育を確認した。

亜高木層は、樹高 6.0～8.0m、植被率 10～20%、出現種数 2 種であった。

低木層は、樹高 1.5～4.5m、植被率 1～30%、出現種数 1～10 種であった。

草本層は、草丈 0.5～1.0m、植被率 3～20%、出現種数 6～22 種であった。

各地点とも、マント群落・ソデ群落の形成に至っていない。

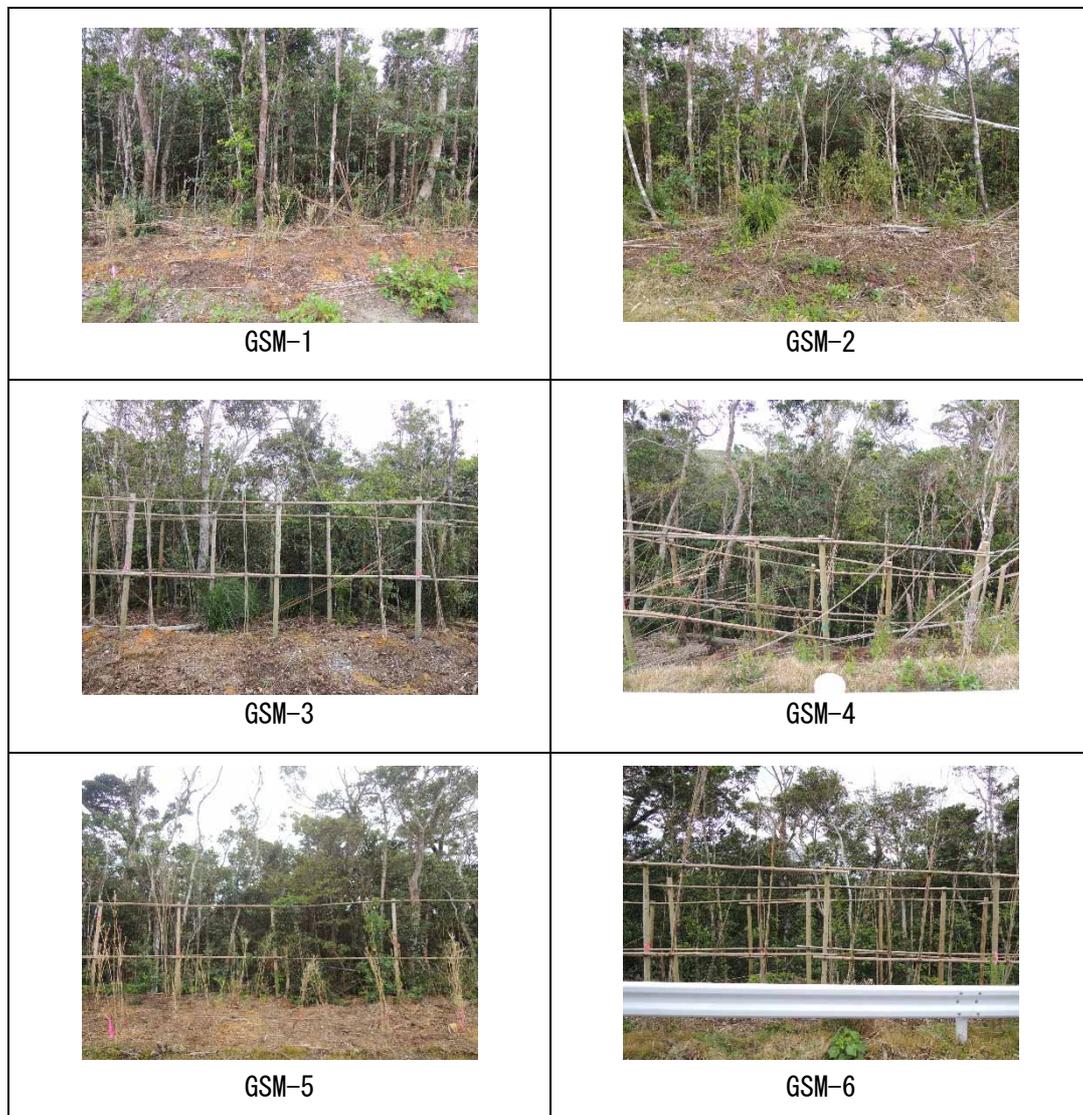


図 6.1.3-63 マント群落・ソデ群落の調査地状況(G 進入路)平成 30 年度冬季

表 6.1.3-40(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G 進入路)

調査年月	GSM1				GSM2				GSM3			
	H30年度				H30年度				H30年度			
	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1
GS進入路 マント群落・ソデ群落形成地												
方位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
傾斜 (°)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
面積 (m <sup>2</sup> )	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4
亜高木層(T2)の高さ (m)	8.0	8.0	8.0	8.0	-	-	-	-	6.0	6.0	6.0	6.0
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	10	10	-	-	-	-	20	20	20	20
亜高木層(T2)の出現種 (種)	1	1	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1
低木層(S)の高さ (m)	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5	4.5	2.0	4.0	4.0	4.0	4.0
低木層(S)の植被率 (%)	10	10	1	1	10	10	3	3	30	30	25	25
低木層(S)の出現種 (種)	5	3	2	2	4	4	3	3	10	10	10	9
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.8	0.5	1.0	0.8	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8
草本層(H)の植被率 (%)	10	5	3	20	10	5	5	5	15	15	15	15
草本層(H)の出現種 (種)	13	10	7	12	19	13	6	12	18	21	19	22
出現種数 (種)	17	13	9	14	22	16	9	14	23	24	22	24
亜高木層(T2)												
T2.1 モッコク	1・1	1・1	1・1	1・1								
T2.2 スタジイ(イタジイ)									2・1	2・1	2・1	2・1
低木層(S)												
S.1 リュウキュウチク (移植株)	1・3	1・3			1・3	1・3			1・3	1・3	1・3	
S.2 タイミンタチバナ					+	+	+	+	+	+	+	+
S.3 ハナガサノキ									+	+	+	+
S.4 ヒメズリハ	+	+	+	+								
S.5 ツゲモチ	+	+	+	+								
S.6 シマミサオノキ	+											
S.7 ギョクシンカ					+	+	+	+				
S.8 リュウキュウモチ					+	+	+	+				
S.9 イスノキ									1・2	1・2	1・2	1・2
S.10 シラタマカズラ									1・1	1・1	1・1	1・1
S.11 ヤマヒハツ									1・1	1・1	+	+
S.12 ヤブツバキ									+2	+2	+2	+2
S.13 イヌマキ									+	+	+	+
S.14 ミズバイ									+	+	+	+
S.15 シロミミズ									+	+	+	+
S.16 リュウキュウチク												
S.17 スタジイ(イタジイ)												
S.18 フカノキ												
S.19 モチノキ												
S.20 オキナワサルトリイバラ												
S.21 コバンモチ	+											
草本層(H)												
H.1 スタジイ(イタジイ)	+	+	+	+		+		+	+	+	+	+
H.2 ハナガサノキ	+	+	+	+	+	+			+	+	+	+
H.3 シマミサオノキ	+	+	+	+	+				+	+		+
H.4 ササクサ	1・2	+2	+	+	1・2	+2	+	+	1・2	+2	+2	+2
H.5 シラタマカズラ									+	+	+	+
H.6 クロガヤ	+			+	1・1	1・1	1・1	1・1	1・2	1・2	1・2	1・2
H.7 ヤマヒハツ				+	+	+	+	+	+	+	+	+
H.8 シバヤブニッケイ	+	+	+	+					+	+	+	+
H.9 イヌマキ									+	+	+	+
H.10 オニタビラコ										+	+	+
H.11 コシダ												
H.12 カクレミノ					+					+		+
H.13 オキナワサルトリイバラ	+	+		+								
H.14 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)					+	+	+	+	+			
H.15 タイミンタチバナ					+				+	+	+	+

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
群度→5: カベツ状に分布, 4: カベツに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-40(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G 進入路)

調査年月	GS進入路 マント群落・ソデ群落形成地											
	GSM1				GSM2				GSM3			
	H30年度				H30年度				H30年度			
	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1
方位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
傾斜 (°)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
面積 (m <sup>2</sup> )	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4
亜高木層(T2)の高さ (m)	8.0	8.0	8.0	8.0	-	-	-	-	6.0	6.0	6.0	6.0
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	10	10	-	-	-	-	20	20	20	20
亜高木層(T2)の出現種 (種)	1	1	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1
低木層(S)の高さ (m)	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5	4.5	2.0	4.0	4.0	4.0	4.0
低木層(S)の植被率 (%)	10	10	1	1	10	10	3	3	30	30	25	25
低木層(S)の出現種 (種)	5	3	2	2	4	4	3	3	10	10	10	9
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.8	0.5	1.0	0.8	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8
草本層(H)の植被率 (%)	10	5	3	20	10	5	5	5	15	15	15	15
草本層(H)の出現種 (種)	13	10	7	12	19	13	6	12	18	21	19	22
出現種数 (種)	17	13	9	14	22	16	9	14	23	24	22	24
草本層(H)												
H.16 リュウキュウチク								+				
H.17 ヒメズリハ	+2	+2	+	+	+	+	+	+				
H.18 リュウキュウモチ						+		+				
H.19 インドシャリンバイ	+	+	+	+								
H.20 シバ	+				+	+						
H.21 カタバミ						+						
H.22 ヤブツバキ										+	+	+
H.23 タブノキ					+						+	
H.24 エダウチホングウシダ									+	+	+	+
H.25 クチナシ										+	+	+
H.26 シロミミス	+	+								+	+	+
H.27 ベニバナボロギク	+									+	+	
H.28 コマツヨイグサ												
H.29 リュウキュウチク (移植株)				3-3								
H.30 シロノセンダングサ				+					+			+
H.31 シロダモ					+	+	+	+				
H.32 アデク					+	+			+			
H.33 ウスベニガナ					+				+	+	+	
H.34 ハルノゲシ								+				+
H.35 ヤンバルミズバイ									+	+	+	+
H.36 モッコク												
H.37 トベラ												
H.38 イスノキ					+	+						
H.39 アメリカフウロ								+				+
H.40 タイワンルリミノキ									+	+		+
H.41 ムッチャガラ										+	+	+
H.42 マンリョウ												
H.43 ダンドボロギク	+				1-2							
H.44 コバンモチ		+							+			
H.45 オオバギ									+			
H.46 ヒメジョオン												
H.47 エゴノキ												
H.48 テリミノイヌホウズキ												
H.49 シマニシキソウ					1-2							
H.50 シシアクチ					+							
H.51 ススキ					+							
H.52 ツゲモチ												
H.53 フカノキ												

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
群度→5: かべつ状に分布, 4: かべつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-40(3) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G 進入路)

調査年月	GSM1				GSM2				GSM3			
	H30年度				H30年度				H30年度			
	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1
方位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
傾斜 (°)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
面積 (m <sup>2</sup> )	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4
亜高木層(T2)の高さ (m)	8.0	8.0	8.0	8.0	-	-	-	-	6.0	6.0	6.0	6.0
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	10	10	-	-	-	-	20	20	20	20
亜高木層(T2)の出現種 (種)	1	1	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1
低木層(S)の高さ (m)	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5	4.5	2.0	4.0	4.0	4.0	4.0
低木層(S)の植被率 (%)	10	10	1	1	10	10	3	3	30	30	25	25
低木層(S)の出現種 (種)	5	3	2	2	4	4	3	3	10	10	10	9
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.8	0.5	1.0	0.8	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8
草本層(H)の植被率 (%)	10	5	3	20	10	5	5	5	15	15	15	15
草本層(H)の出現種 (種)	13	10	7	12	19	13	6	12	18	21	19	22
出現種数 (種)	17	13	9	14	22	16	9	14	23	24	22	24
草本層(H)												
H.54 ギョウギンバ												
H.55 ハゼノキ												
H.56 モチノキ												
H.57 ヒサカキ												
H.58 リュウキュウマツ												
H.59 コバノニシキソウ												
H.60 メヒシバ												
H.61 タチスズメノヒエ												
H.62 カスマグサ												

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5：被度が75～100%，4：被度が50～75%，3：被度が25～50%，2：被度が10～25%，1：被度が10%未満，+：被度が1%以下  
 群度→5：カーペット状に分布，4：カーペットに穴が開いた状態，3：大きな班を形成あるいはまだら状，2：班状に分布，1：小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-40(4) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G 進入路)

調査年月	GSM4				GSM5				GSM6				出現回数	
	H30年度				H30年度				H30年度					
	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1		
方位	W	W	W	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
傾斜 (°)	45	45	45	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
面積 (m <sup>2</sup> )	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現種 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	4.5	4.5	4.5	1.5	4.5	4.5	4.5	2.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
低木層(S)の植被率 (%)	15	15	15	5	15	10	10	10	15	15	15	10	10	
低木層(S)の出現種 (種)	1	1	1	2	1	3	3	3	2	4	5	4	4	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	1.0	1.0	1.0	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	
草本層(H)の植被率 (%)	5	5	5	5	10	10	10	20	10	10	5	10	10	
草本層(H)の出現種 (種)	13	14	14	19	21	20	17	21	10	13	12	13	13	
出現種数 (種)	13	14	14	20	21	22	19	23	11	15	14	14	14	
亜高木層(T2)														
T2.1 モッコク														4
T2.2 スダジイ(イタジイ)														4
低木層(S)														
S.1 リュウキュウチク (移植株)	1・3	1・3	1・3		1・3	1・3	1・3	+2	1・3	1・3	1・3			17
S.2 タイミンタチバナ														8
S.3 ハナガサノキ				+						+	+2	+2		8
S.4 ヒメズリハ														4
S.5 ツゲモチ														4
S.6 シマミサオノキ										+	1・1	1・1		4
S.7 ギョクシンカ														4
S.8 リュウキュウモチ														4
S.9 イスノキ														4
S.10 シラタマカズラ														4
S.11 ヤマヒハツ														4
S.12 ヤブツバキ														4
S.13 イヌマキ														4
S.14 ミズバイ														4
S.15 シロミズ														4
S.16 リュウキュウチク			+	1・1			+	+						4
S.17 スダジイ(イタジイ)									1・1	1・1	1・1	1・1		4
S.18 フカノキ						1・1	1・1	1・1						3
S.19 モチノキ						+	+	1・1						3
S.20 オキナワサルトリイバラ											+	+		2
S.21 コバンモチ														1
草本層(H)														
H.1 スダジイ(イタジイ)	+	+	+	+	+	+	+	+	1・2	1・2	1・2	1・2		22
H.2 ハナガサノキ			+		+	+	+	+	+	+	+	+		19
H.3 シマミサオノキ	+	+	+	+	+	+	+	+	1・1					17
H.4 ササクサ			+		+	+	+	+						16
H.5 シラタマカズラ	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+		15
H.6 クロガヤ					1・1	1・1	1・1	1・1						14
H.7 ヤマヒハツ	+	+	+	+										13
H.8 シバヤブニッケイ					+	+	+	+						12
H.9 イヌマキ	+	+	+	+	+	+	+	+						12
H.10 オニタビラコ	+	+	+	+					+	+	+	+		11
H.11 コシダ	+	+	+	+	+2	+2	+2	+2	+	+	+	1・1		11
H.12 カクレミノ	+	+	+	+	+		+	+						10
H.13 オキナワサルトリイバラ					+	+			+	+	+	+		9
H.14 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)					+	+	+	+						9
H.15 タイミンタチバナ					+	+	+	+						9

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-40(5) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G 進入路)

調査年月	GSM4				GSM5				GSM6				出現回数	
	H30年度				H30年度				H30年度					
	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1		
方位	W	W	W	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
傾斜 (°)	45	45	45	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
面積 (m <sup>2</sup> )	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現種 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	4.5	4.5	4.5	1.5	4.5	4.5	4.5	2.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
低木層(S)の植被率 (%)	15	15	15	5	15	10	10	10	15	15	15	10	10	
低木層(S)の出現種 (種)	1	1	1	2	1	3	3	3	2	4	5	4	4	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	1.0	1.0	1.0	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	
草本層(H)の植被率 (%)	5	5	5	5	10	10	10	20	10	10	5	10	10	
草本層(H)の出現種 (種)	13	14	14	19	21	20	17	21	10	13	12	13	13	
出現種数 (種)	13	14	14	20	21	22	19	23	11	15	14	14	14	
草本層(H)														
H.16 リュウキュウチク	+	+	+	+	+	+	+	+2						9
H.17 ヒメユズリハ														8
H.18 リュウキュウモチ	+	+	+	+					+	+				8
H.19 インドシャリンバイ					+	+			+					7
H.20 シバ		+		+							+	+		7
H.21 カタバミ			+	+					+	+	+	+		7
H.22 ヤブツバキ					+	+	+	+						7
H.23 タブノキ					+	+	+	+						6
H.24 エダウチホングウシダ								+						6
H.25 クチナシ										+	+	+		6
H.26 シロミズ														5
H.27 ベニバナボロギク			+	+										5
H.28 コマツヨイグサ	+	+							1・2	1・2	+			5
H.29 リュウキュウチク (移植株)					+	+		1・2						4
H.30 シロノセンダングサ				+										4
H.31 シロダモ														4
H.32 アデク							+							4
H.33 ウスベニガナ														4
H.34 ハレノゲシ				+								+		4
H.35 ヤンバルミズバイ														4
H.36 モッコク	+	+	+	+										4
H.37 トベラ					+	+	+	+						4
H.38 イスノキ									+					3
H.39 アメリカフウロ				+										3
H.40 タイワンルリミノキ														3
H.41 ムッチャガラ														3
H.42 マンリョウ					+	+		+						3
H.43 ダンドボロギク														2
H.44 コバンモチ														2
H.45 オオバギ					+									2
H.46 ヒメジョオン				+									+	2
H.47 エゴノキ									+	+				2
H.48 テリミノイヌホウズキ										+	+			2
H.49 シマニシキソウ														1
H.50 シシアクチ														1
H.51 ススキ														1
H.52 ツゲモチ	+													1
H.53 フカノキ		+												1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: カベツト状に分布, 4: カベツトに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-40(6) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G 進入路)

調査年月	GSM4				GSM5				GSM6				出現回数	
	H30年度				H30年度				H30年度					
	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1	6/2	9/4	10/22	2/1		
方位	W	W	W	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
傾斜 (°)	45	45	45	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
面積 (m <sup>2</sup> )	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現種 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	4.5	4.5	4.5	1.5	4.5	4.5	4.5	2.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
低木層(S)の植被率 (%)	15	15	15	5	15	10	10	10	15	15	15	10	10	
低木層(S)の出現種 (種)	1	1	1	2	1	3	3	3	2	4	5	4	4	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	1.0	1.0	1.0	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	
草本層(H)の植被率 (%)	5	5	5	5	10	10	10	20	10	10	5	10	10	
草本層(H)の出現種 (種)	13	14	14	19	21	20	17	21	10	13	12	13	13	
出現種数 (種)	13	14	14	20	21	22	19	23	11	15	14	14	14	
草本層(H)														
H.54 ギョウギシバ				+										1
H.55 ハゼノキ				+										1
H.56 モチノキ					1・1									1
H.57 ヒサカキ					+									1
H.58 リュウキュウマツ						+								1
H.59 コバノニシキソウ										+				1
H.60 メヒシバ											+			1
H.61 タチスズメノヒエ													+	1
H.62 カスマグサ													+	1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: カベツト状に分布, 4: カベツトに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

c) H 地区

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-41 に、調査地の状況を図 6.1.3-64 に示した。

東側においては、樹高 7.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に分化しており、北側及び南側、西側は樹高 4.0～5.5m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。

種数は 20～32 種の生育を確認した。

亜高木層は、東側の 1 箇所樹高 7.0m、植被率 10～20%、出現種数 2 種であった。

低木層は、樹高 3.5～5.5m、植被率 20～35%、出現種数 3～12 種であった。

草本層は、草丈 1.0m、植被率 5～40%、出現種数 17～28 種であった。

各地点とも、マント群落・ソデ群落の形成に至っていない。

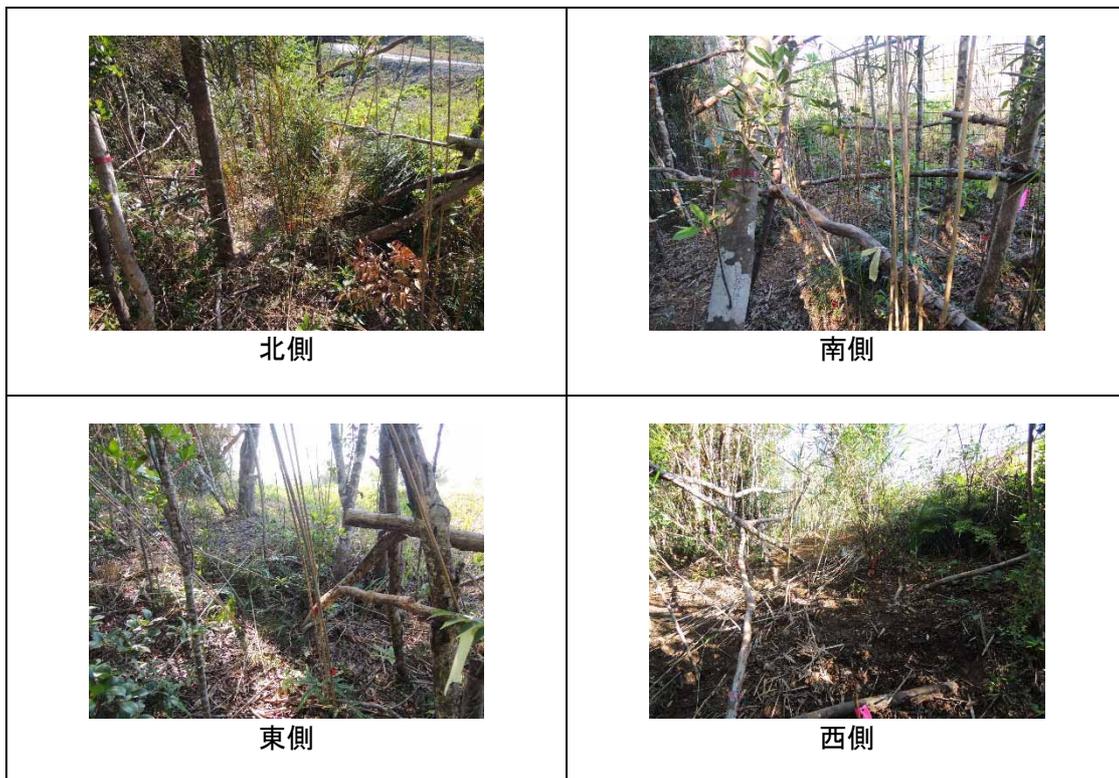


図 6.1.3-64 マント群落・ソデ群落の調査地状況(H)平成 30 年度冬季

表 6.1.3-41(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(H)

調査年月	H マント群落・ソデ群落形成地				北側				南側				東側				西側				出現回数
	H30年度				H30年度				H30年度				H30年度								
	6/7	9/18	11/1	1/25	6/7	9/18	11/1	1/25	6/7	9/18	11/1	1/25	6/7	9/18	11/1	1/25					
方位	E	E	E	E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	5	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5	5	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	7.0	7.0	7.0	7.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	5.5	5.5	5.5	5.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
低木層(S)の植被率 (%)	25	25	30	30	25	25	30	35	20	20	20	20	30	30	30	30	30	30	30	30	
低木層(S)の出現数 (種)	4	4	7	6	9	11	11	12	6	6	6	5	3	3	3	3	3	3	3	3	
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	25	30	40	40	20	30	40	30	20	20	20	25	5	5	5	5	5	5	5	5	
草本層(H)の出現数 (種)	23	25	23	23	26	24	27	28	21	22	17	18	20	23	19	23	20	23	19	23	
出現種数 (種)	24	26	25	25	31	31	31	32	23	24	20	20	22	24	20	23	24	20	23	23	
亜高木層(T2)																					
T2.1 モッコク									1・1	1・1	1・1	1・1								4	
T2.2 タイミンタチバナ									1・1	1・1	+	+								4	
低木層(S)																					
S.1 リュウキュウチク (移植株)	2・2	2・2	2・2	2・2	+	+	+	+	+	+	+	+					1・3	1・3	1・3	1・2	15
S.2 リュウキュウチク	1・2	1・2	1・2	1・2	+	+	1・1	1・1									1・2	1・2	1・2	1・2	12
S.3 イスノキ	1・1	1・1	1・1	1・1	1・2	1・2	1・2	1・2									1・1	1・1	1・1	1・1	12
S.4 タイミンタチバナ	+	+	+	+	+	+	+	+	1・1	1・1	1・1	1・1									12
S.5 ハナガサノキ	+	+	+	+	+	+	+	+													10
S.6 コバンモチ					1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1									8
S.7 シバヤブニッケイ				+	+	+	+	+													6
S.8 アデク				+				+	1・1	1・1	1・1	1・1									6
S.9 イジュ				+	+			+													5
S.10 シマミサオノキ					1・1	1・1	1・1	1・1													4
S.11 カクレミノ					+	+	+	+													4
S.12 ミズバイ					+	+	+	+													4
S.13 シラタマカズラ									+	+	+	+									4
S.14 ヤマヒハツ													1・1	1・1	1・1	1・1					4
S.15 リュウキュウモチ						+	+	+													3
S.16 イヌガシ								+	+												2
S.17 リュウキュウチク (追加移植)								1・2												+	2
草本層(H)																					
H.1 ササクサ	1・2	1・2	1・2	1・2	2・2	2・2	3・3	2・2	1・2	1・2	1・2	1・2	+	+	+	+	+	+	+	+	16
H.2 ハナガサノキ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	16
H.3 アデク	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	16
H.4 クロガヤ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	15
H.5 オキナワサルトリイバラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	15
H.6 リュウキュウモチ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	15
H.7 マンリョウ		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	15
H.8 ササバサンクライ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	13
H.9 ヒメユズリハ	+	+	+	+	+				+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	13
H.10 イスノキ	+	+	+	+	+	+	+	+									+	+	+	+	12
H.11 シンエダウチホングウシダ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+					+	+	+	+	12
H.12 シラタマカズラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+									12
H.13 タイミンタチバナ					+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.14 アカメガシワ					+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.15 ギョクシンカ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+									10

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-41(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(H)

調査年月	H マント群落・ソデ群落形成地																出現回数
	北側				南側				東側				西側				
	H30年度				H30年度				H30年度				H30年度				
	6/7	9/18	11/1	1/25	6/7	9/18	11/1	1/25	6/7	9/18	11/1	1/25	6/7	9/18	11/1	1/25	
方位	E	E	E	E	-	-	-	-	-	-	-	-	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	5	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5	5	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	7.0	7.0	7.0	7.0	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20	20	10	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	2	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	5.5	5.5	5.5	5.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	
低木層(S)の植被率 (%)	25	25	30	30	25	25	30	35	20	20	20	20	30	30	30	30	
低木層(S)の出現数 (種)	4	4	7	6	9	11	11	12	6	6	6	5	3	3	3	3	
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	25	30	40	40	20	30	40	30	20	20	20	25	5	5	5	5	
草本層(H)の出現数 (種)	23	25	23	23	26	24	27	28	21	22	17	18	20	23	19	23	
出現種数 (種)	24	26	25	25	31	31	31	32	23	24	20	20	22	24	20	23	
草本層(H)																	
H. 16 コバンモチ	+	+	+				+		+	+			+	+	+	+	10
H. 17 ヤマヒハツ	+	+	+	+	+	+	+	+								+	9
H. 18 コシダ	1・2	1・2	1・2	1・2					1・2	1・2	1・2	1・2					8
H. 19 スダジイ(イタジイ)	+	+	+	+	+	+	+	+									8
H. 20 シバヤブニッケイ	+	+	+	+				+					+	+		+	8
H. 21 トベラ					+	+	+	+	+	+	+	+					8
H. 22 ヒサカキ					+	+	+	+					+	+	+	+	8
H. 23 イジュ	1・1	1・1			+		+	+					+	+			7
H. 24 リュウキュウチク	+	+	+	+									+	+	+		7
H. 25 インドシャリンバイ					+	+	+	+	+	+		+					7
H. 26 カクレミノ					+		+	+					+	+	+	+	7
H. 27 シロノセンダングサ						+	+	+		+			+	+	+		7
H. 28 シロミミズ						+			+	+	+	+	+			+	7
H. 29 モクレイシ	+	+	+	+					+	+							6
H. 30 タブノキ	+	+	+	+									+			+	6
H. 31 コバナヒメハギ	+	+	+	+													4
H. 32 ウラジロカンコノキ					+	+	+	+									4
H. 33 ギイマ									+	+	+	+					4
H. 34 ハゼノキ													+	+	+	+	4
H. 35 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)	+	+		+													3
H. 36 トキワカモメツル		+	+	+													3
H. 37 ツゲモチ					+	+		+									3
H. 38 ホルトノキ(モガン)					+	+		+									3
H. 39 ソテツ													+	+	+		3
H. 40 ムッチャガラ					+		+										2
H. 41 シマミサオノキ							+	+									2
H. 42 ヘクソカズラ									+	+							2
H. 43 ヒョウタンカズラ													+	+			2
H. 44 オオバギ													+	+			2
H. 45 シシアクチ							+										1
H. 46 サザンカ								+									1
H. 47 チガヤ											+						1
H. 48 ススキ												+					1

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。  
 優占度→5:被度が75~100%, 4:被度が50~75%, 3:被度が25~50%, 2:被度が10~25%, 1:被度が10%未満, +:被度が1%以下  
 群度→5:カベツト状に分布, 4:カベツトに穴が開いた状態, 3:大きな班を形成あるいはまだら状, 2:班状に分布, 1:小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南側、東側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.1.3-42 に、調査地の状況を図 6.1.3-65 に示した。

北側は、草丈0.3~1.0m、植被率60~80%、出現種4~7種であった。草本類のシロノセンダングサが優占していた。

南側は、草丈0.3~0.8m、植被率70~80%、出現種8~17種であった。草本類のシロノセンダングサ、シバ、ギョウギシバが優占していた。

東側は、草丈0.3~0.6m、植被率100%、出現種3~7種であった。草本類のシロノセンダングサが優占していた。

西側は、草丈0.2m、植被率100%、出現種3~5種であった。草本類のシバが優占していた。

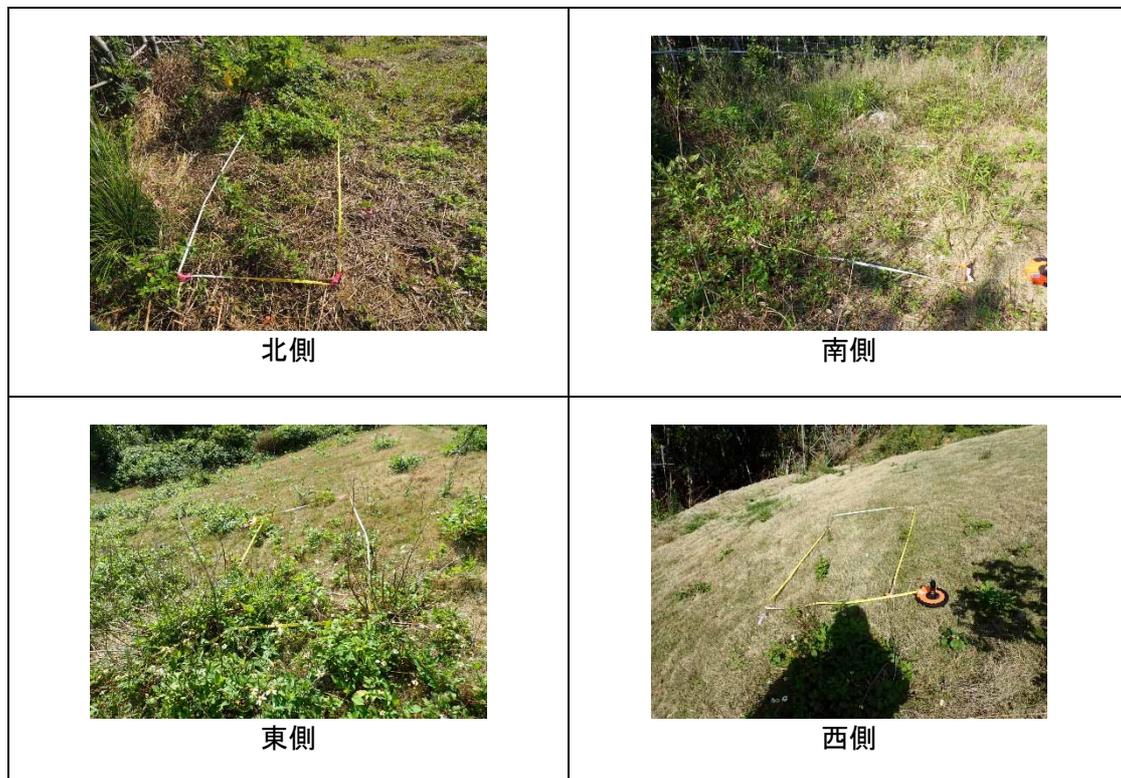


図 6.1.3-65 無障害物帯の調査地状況の推移(H)

表 6.1.3-42 無障害物帯形成地の植生調査結果 (H)

H 無障害物帯	北側				南側				東側				西側				出現回数
	H30年度				H30年度				H30年度				H30年度				
	6/7	9/18	11/1	1/25	6/7	9/18	11/1	1/25	6/8	9/18	11/1	1/25	6/8	9/18	11/1	1/25	
調査年月																	
方位	NE	NE	NE	NE	S	S	S	S	E	E	E	E	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	10	10	10	10	5	5	5	5	45	45	45	45	45	45	45	45	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	0.7	0.3	0.3	0.8	0.8	0.6	0.3	0.6	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	
草本層(H)の植被率 (%)	70	80	80	60	70	70	75	80	100	100	100	100	100	100	100	100	
出現種数 (種)	7	6	7	4	17	10	9	8	7	5	5	3	5	4	5	3	
草本層(H)																	
H. 1 シロノセンダングサ	3・3	5・5	5・5	4・4	1・2	2・2	2・2	3・3	2・2	2・2	2・2	2・2	+	+	+	+	16
H. 2 シバ					2・2	2・2	3・3	3・3	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	12
H. 3 ギョウギシバ	+・2	+	+		3・4	3・4	3・3	3・3									7
H. 4 ハマスゲ									+・2	+・2	+・2		+・2	+・2	+・2		6
H. 5 キバナニワゼキショウ	+		+		+	+		+									5
H. 6 チガヤ				+		+	+・2	1・2									4
H. 7 オキナワサルトリイバラ					+	+	+	+									4
H. 8 カタバミ									+	+	+		+				4
H. 9 タカサブロウ													+	+	+	+	4
H. 10 オオアブラガヤ	+	+	+														3
H. 11 ホシダ	+	+	+														3
H. 12 オオアレチノギク					1・2	1・2	+・2										3
H. 13 シマニシキソウ					+	+	+										3
H. 14 コバノニシキソウ					+	+			+								3
H. 15 ヤマグワ					+		+	+									3
H. 16 ダンドボロギク					+							+			+		3
H. 17 ケニオイグサ									+	+	+						3
H. 18 ベニバナボロギク	2・2				+												2
H. 19 ホウキギク	1・2	+															2
H. 20 コバンモチ		+	+														2
H. 21 コマツヨイグサ					+	+											2
H. 22 ヒナギキョウ					+		+										2
H. 23 ヒメジョオン			+														1
H. 24 ササクサ				+													1
H. 25 コバナヒメハギ				+													1
H. 26 メヒシバ					+												1
H. 27 ヒメブタナ					+												1
H. 28 ギシギシ sp.					+												1
H. 29 ハイニシキソウ					+												1
H. 30 ホソバワダン								+									1
H. 31 ツメクサ									+								1

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かべッ状に分布, 4: かべッ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

d) N-1(a)

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-43 に、調査地の状況を図 6.1.3-66 に示した。

南側においては、樹高 8.5m の高木層、亜高木層、低木層、草本層の 4 階層に分化しているほか、東側は樹高 5.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に、北側及び西側は樹高 2.0～2.5m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。種数は 18～39 種の生育を確認した。

高木層は、南側の 1 箇所のみで樹高 8.5m、植被率 20%、出現種数 1 種であった。

亜高木層は、南側、東側の 2 箇所で樹高 5.0～6.0m、植被率 10～30%、出現種数 2～5 種であった。

低木層は、樹高 2.0～2.5m、植被率 10～60%、出現種数 3～5 種であった。

草本層は、草丈 0.5～1.0m、植被率 10～50%、出現種数 16～37 種であった。

なお、東側については、工事前からリュウキュウチクが生育しており、既存のマント群落・ソデ群落が形成されている。

既存のマント群落・ソデ群落が形成されている東側を除く 3 地点においては、マント群落・ソデ群落の形成に至っていない。

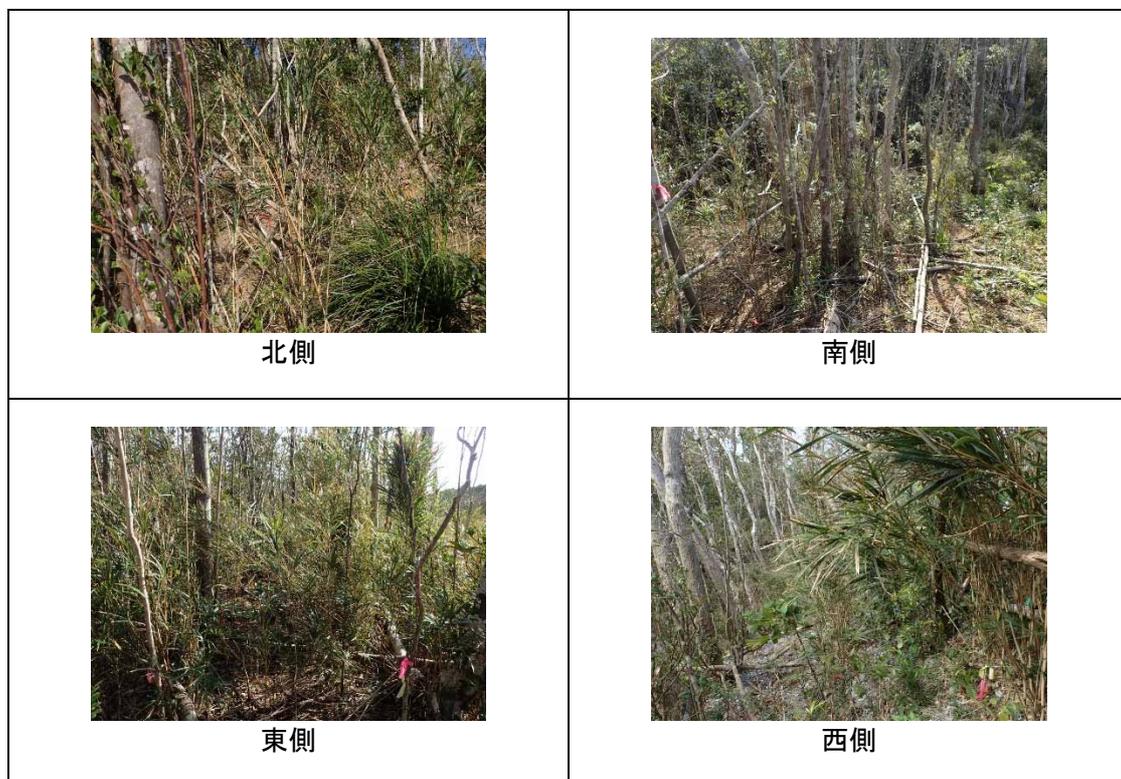


図 6.1.3-66 マント群落・ソデ群落の調査地状況(N-1(a))平成 30 年度冬季

表 6.1.3-43(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a))

N-1(a) マント群落・ソデ群落形成地	北側				南側				東側				西側				出現回数
	H30年度				H30年度				H30年度				H30年度				
	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	
方位	W	W	W	W	W	W	W	W	-	-	-	-	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	40	40	40	40	5	5	5	5	-	-	-	-	5	5	5	5	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	2×3	2×3	2×3	2×3	2×4	2×4	2×4	2×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1×4	1×4	1×4	1×4	
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	-	8.5	8.5	8.5	8.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	-	20	20	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-	
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	6.0	6.0	6.0	6.0	5.0	5.0	5.0	5.0	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	10	30	10	10	20	20	20	20	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	5	5	5	5	2	2	2	2	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	60	60	60	60	10	20	20	20	30	40	40	40	30	30	30	30	
低木層(S)の出現数 (種)	4	3	3	3	5	5	5	4	3	4	3	3	3	3	4	4	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.7	0.5	0.5	0.8	
草本層(H)の植被率 (%)	10	15	15	15	40	50	50	50	10	15	15	15	30	40	40	40	
草本層(H)の出現数 (種)	19	19	16	19	35	31	28	30	18	21	21	19	32	37	35	34	
出現種数 (種)	21	20	18	21	36	33	30	32	19	22	21	20	35	39	38	37	
高木層(T1)																	
T1.1 スダジイ(イタジイ)					2・1	2・1	2・1	2・1									4
亜高木層(T2)																	
T2.1 アデク					+	1・1			2・1	2・1	2・1	2・1					6
T2.2 ヒメユズリハ					1・2	1・2	1・1	1・1									4
T2.3 イヌマキ					+	1・1	1・1	1・1									4
T2.4 イスノキ					+	1・1	+	+									4
T2.5 ギイマ					+	+	+	+									4
T2.6 ハナガサノキ									+	+	+	+					4
T2.7 タイミンタチバナ							+	+									2
低木層(S)																	
S.1 リュウキュウチク (移植株)	3・4	3・4	3・4	3・4	1・2	2・2	2・2	2・2					2・3	2・3	2・3	2・3	12
S.2 リュウキュウチク							+	+	2・3	3・3	3・3	3・3	+	+	+	+	10
S.3 アデク	1・1	1・1	1・1	1・1						1・1	1・1	1・1					7
S.4 シバヤブニッケイ	1・1	1・1	1・1	1・1													4
S.5 タイミンタチバナ					++2	+	+			+							4
S.6 イスノキ					+	1・1	+	+									4
S.7 ムッチャガラ					+	+	+	+									4
S.8 フカノキ													1・1	1・1	1・1	1・1	4
S.9 ヒサカキ													1・1	+	+	+	4
S.10 コバンモチ					+	+	+										3
S.11 ヒメユズリハ									+		+	+					3
S.12 ギョクシンカ									+	+							2
S.13 ヤマゲワ															1・1	1・1	2
S.14 リュウキュウモチ	+																1
S.15 シラタマカズラ								+									1
草本層(H)																	
H.1 ササクサ	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	2・2	2・2	2・2	+	1・2	1・2	++2	+	1・2	1・2	1・2	16
H.2 シラタマカズラ	+	+	+	+	++2	++2	++2	++2	+	++2	++2	++2	+	+	+	+	16
H.3 イスノキ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	++2	++2	++2	+	+	+	+	16
H.4 オキナワサルトリイバラ	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	15
H.5 シバヤブニッケイ	+	+	+	+	+	++2	++2	++2	+		+		+	+	+	+	14
H.6 ササバサンキライ	+		+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	14
H.7 ムッチャガラ	+		+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	14
H.8 タイミンタチバナ	+				++2	++2	++2	1・2	+	+	+	+	1・2	1・1	1・1	1・1	13
H.9 スダジイ(イタジイ)	+				+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	13
H.10 クロガヤ	+	+	+	+	++2	++2	++2	++2					+	+	+	+	12

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-43(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a))

N-1(a) マント群落・ソデ群落形成地	北側				南側				東側				西側				出現回数
	H30年度				H30年度				H30年度				H30年度				
	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	
方位	W	W	W	W	W	W	W	W	-	-	-	-	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	40	40	40	40	5	5	5	5	-	-	-	-	5	5	5	5	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	2×3	2×3	2×3	2×3	2×4	2×4	2×4	2×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1×4	1×4	1×4	1×4	
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	-	8.5	8.5	8.5	8.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	-	20	20	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-	
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	6.0	6.0	6.0	6.0	5.0	5.0	5.0	5.0	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	10	30	10	10	20	20	20	20	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	5	5	5	5	2	2	2	2	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	60	60	60	60	10	20	20	20	30	40	40	40	30	30	30	30	
低木層(S)の出現数 (種)	4	3	3	3	5	5	5	5	4	3	4	3	3	3	4	4	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.7	0.5	0.5	0.8	
草本層(H)の植被率 (%)	10	15	15	15	40	50	50	50	10	15	15	15	30	40	40	40	
草本層(H)の出現数 (種)	19	19	16	19	35	31	28	30	18	21	21	19	32	37	35	34	
出現種数 (種)	21	20	18	21	36	33	30	32	19	22	21	20	35	39	38	37	
草本層(H)																	
H.11 シンエダウチホングウシダ	+	+	+	+	+	+	+	+					+	+	+	+	12
H.12 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)	+	+	+	+		+	+	+					+	+	+	+	11
H.13 アカメガシワ	+	+		+	+	+	+	+					+	+	+	+	11
H.14 アデク	+	+			+	+	+	+			+		+	+	+	+	11
H.15 イヌマキ	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+					11
H.16 シマミサオノキ					+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	11
H.17 ハナガサノキ					+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	11
H.18 シロノセンダングサ		+		+	+	+		+					+	+	+	1・2	9
H.19 ヤマヒハツ			+	+	+	+	+						+	+	+	+	9
H.20 イジュ	+	+2	+2	+2	+	+	+	+									8
H.21 シシアクチ	+	+	+	+	+		+	+								+	8
H.22 カクレミノ					+	+	+	+	+	+	+	+2					8
H.23 ヒョウタンカズラ					+	+	+	+					+	+	+	+	8
H.24 オニクラマゴケ(ミドリカタヒバ)	+	+		+									+	+	+	+	7
H.25 シロミズ					+	+		+					+	+	+	+	7
H.26 コバンモチ					+		+	+	+	1・2	1・2	1・2					7
H.27 インドシャリンバイ		+		+	+	+	+	+									6
H.28 ヒメユズリハ					+	+			+	+	+	+					6
H.29 モクレイシ						+		+		+	+	+	+				6
H.30 ハゼノキ	+	+			+	+	+										5
H.31 ミズバイ								+					+	+	+	+	5
H.32 ギョクシンカ									1・1	+	+	+	+				5
H.33 リュウキュウチク (移植株)					3・3	3・3	3・3	2・3									4
H.34 リュウキュウアリドゥン					+	+	+	+									4
H.35 オオバギ					+								+	+	+		4
H.36 リュウキュウチク									+	+2	+2	1・2					4
H.37 マンリョウ									+	+	+	+					4
H.38 ヒサカキサザンカ													1・2	1・2	1・2	1・2	4
H.39 トキワカモメヅル													+2	+2	+2	+2	4
H.40 タブノキ													+	+2	+2	+2	4
H.41 ケホシダ													+	+	+	+	4
H.42 ホラシノブ													+	+	+	+	4
H.43 ヤンバルミズバイ		+	+	+													3
H.44 サザンカ		+	+			+											3
H.45 リュウキュウモチ					+	+				+							3

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。  
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへッ状に分布, 4: かへッ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-43(3) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a))

N-1(a) マント群落・ソデ群落形成地	北側				南側				東側				西側			
	H30年度								H30年度							
	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12
調査年月	W	W	W	W	W	W	W	W	-	-	-	-	W	W	W	W
方位	W	W	W	W	W	W	W	W	-	-	-	-	W	W	W	W
傾斜角度 (°)	40	40	40	40	5	5	5	5	-	-	-	-	5	5	5	5
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	2×3	2×3	2×3	2×3	2×4	2×4	2×4	2×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1×4	1×4	1×4	1×4
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	-	8.5	8.5	8.5	8.5	-	-	-	-	-	-	-	-
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	-	20	20	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	6.0	6.0	6.0	6.0	5.0	5.0	5.0	5.0	-	-	-	-
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	10	30	10	10	20	20	20	20	-	-	-	-
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	5	5	5	5	2	2	2	2	-	-	-	-
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0
低木層(S)の植被率 (%)	60	60	60	60	10	20	20	20	30	40	40	40	30	30	30	30
低木層(S)の出現数 (種)	4	3	3	3	5	5	5	4	3	4	3	3	3	3	4	4
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.7	0.5	0.5	0.8
草本層(H)の植被率 (%)	10	15	15	15	40	50	50	50	10	15	15	15	30	40	40	40
草本層(H)の出現数 (種)	19	19	16	19	35	31	28	30	18	21	21	19	32	37	35	34
出現種数 (種)	21	20	18	21	36	33	30	32	19	22	21	20	35	39	38	37
出現回数																
草本層(H)																
H. 46 ヒサカキ					+		+	+								3
H. 47 チガヤ								+					+	+		3
H. 48 トクサラン									+	+	+					3
H. 49 オニタビラコ													1・2	1・2	1・2	3
H. 50 フカノキ													+	+	+	3
H. 51 オオアレチノギク													+	+	+	3
H. 52 ナガバカニクサ(カニクサ)													+	+	+	3
H. 53 モエジマシダ													+	+	+	3
H. 54 ツゲモチ				+												2
H. 55 リュウキュウテイカカズラ										+		+				2
H. 56 ヤマグワ													1・1	1・1		2
H. 57 ノアサガオ		+														1
H. 58 チチコグサ					+											1
H. 59 ヒメブタナ					+											1
H. 60 マツバゼリ					+											1
H. 61 ホウキギク						+										1
H. 62 ハス/ハカズラ							+									1
H. 63 ヤマモモ													+			1
H. 64 イヌガシ														+		1
H. 65 クロミノオキナワズメウリ														+		1
H. 66 タシロルリミノキ															+	1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。  
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへット状に分布, 4: かへットに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、北側、南側、東側の3箇所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.1.3-44 に、調査地の状況を図 6.1.3-67 に示した。なお、西側については、既存道路となっていることから、調査を行っていない。

以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、草丈 0.7~0.8m、植被率 100%、出現種 9~10 種で、チガヤが優占していた。

南側は、草丈 0.3~0.6m、植被率 75~80%、出現種 13~21 種で、シバが優占していた。

東側は、草丈 0.1~0.2m、植被率 100%、出現種 2~6 種で、シバが優先していた。

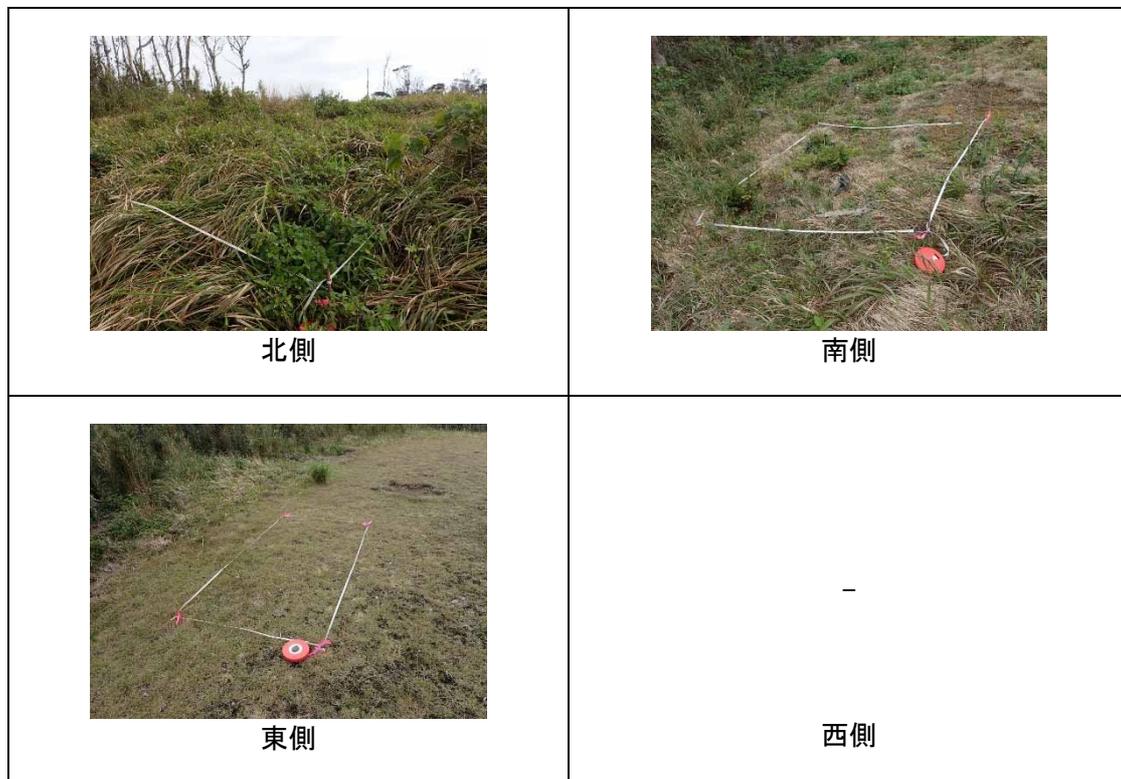


図 6.1.3-67 無障害物帯の調査地状況(N-1(a)) 平成30年度冬季

表 6.1.3-44 無障害物帯形成地の植生調査結果 (N-1(a))

N-1(a) 無障害物帯	北側				南側				東側				出現回数
	H30年度				H30年度				H30年度				
	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	6/1	9/14	10/22	2/12	
調査年月													
方位	W	W	W	W	SW	SW	SW	SW	-	-	-	-	
傾斜角度 (°)	30	30	30	30	10	10	10	10	-	-	-	-	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×1	2×1	2×1	2×1	
草本層(H)の高さ (m)	0.7	0.8	0.8	0.8	0.6	0.3	0.6	0.6	0.1	0.1	0.1	0.2	
草本層(H)の植被率 (%)	100	100	100	100	80	75	75	80	100	100	100	100	
出現種数 (種)	10	9	9	9	16	13	16	21	3	3	2	6	
草本層(H)													
H. 1 シバ	3・3				5・5	4・4	4・4	4・5	5・5	5・5	5・5	5・5	9
H. 2 チガヤ	1・2	1・2	4・4	4・4	+	+・2	+・2	1・2				+・2	9
H. 3 オオアブラガヤ	4・4	4・4	2・3	2・3	+	+	+						7
H. 4 シロノセンダングサ	2・2	2・3	2・3	3・3				+		+		+	7
H. 5 ホラシノブ		+	+	+	+	1・2	1・2	1・2					7
H. 6 ホシダ	+	+	+	+	+								5
H. 7 ヒナギキョウ	+				2・2	+・2	+	+・2					5
H. 8 ベニバナボロギク	+				+・2	+	+	+・2					5
H. 9 ニワゼキショウ	+						+	+・2	+			+	5
H. 10 オキナワサルトリイバラ		+	+	+	+								4
H. 11 ホウキギク		+				+・2	+	+					4
H. 12 オオアレチノギク					+	+・2	+・2	+・2					4
H. 13 リュウキュウチク					+	+	+	+					4
H. 14 アキノゲシ					+	+	+	+					4
H. 15 ハマスゲ									+	+・2	+・2	+	4
H. 16 ススキ		3・3	1・2	1・2									3
H. 17 ヤマヒハツ			+				+	+					3
H. 18 オニタビラコ					+		+	+					3
H. 19 ヒリュウシダ						+	+	+					3
H. 20 ヒカゲヘゴ		+	+										2
H. 21 ササクサ				+	+								2
H. 22 ダンドボロギク					+			+					2
H. 23 クロガヤ						+		+					2
H. 24 ヒメブタナ							+	+・2					2
H. 25 クグテンツキ							+	+					2
H. 26 ハマサルトリイバラ	+												1
H. 27 ワラビ	+												1
H. 28 インドシャリンバイ				+									1
H. 29 キキョウソウ					+								1
H. 30 マツバウンラン sp.					+								1
H. 31 コマツヨイグサ						+							1
H. 32 チチコグサ								+					1
H. 33 インドヨメナ(コヨメナ)								+					1
H. 34 コバナヒメハギ								+					1
H. 35 コメツブウマゴヤシ												+	1

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

e) N-1 (b)

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-45 に、調査地の状況を図 6.1.3-68 に示した。

北側及び西側においては、樹高 8.0m の高木層、亜高木層、低木層、草本層の 4 階層に分化しているほか、南側は樹高 4.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に、東側は樹高 2.0~2.5m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。種数は 13~35 種の生育を確認した。

高木層は、北側及び西側の 2 箇所では樹高 8.0m、植被率 10~30%、出現種数 1~3 種であった。

亜高木層は、北側、南側、西側の 3 箇所では樹高 4.0~5.0m、植被率 10~15%、出現種数 1~3 種であった。

低木層は、樹高 2.0~3.0m、植被率 20~45%、出現種数 2~4 種であった。

草本層は、草丈 0.5~1.5m、植被率 5~30%、出現種数 11~34 種であった。

各地点とも、マント群落・ソデ群落の形成にいたっていない。

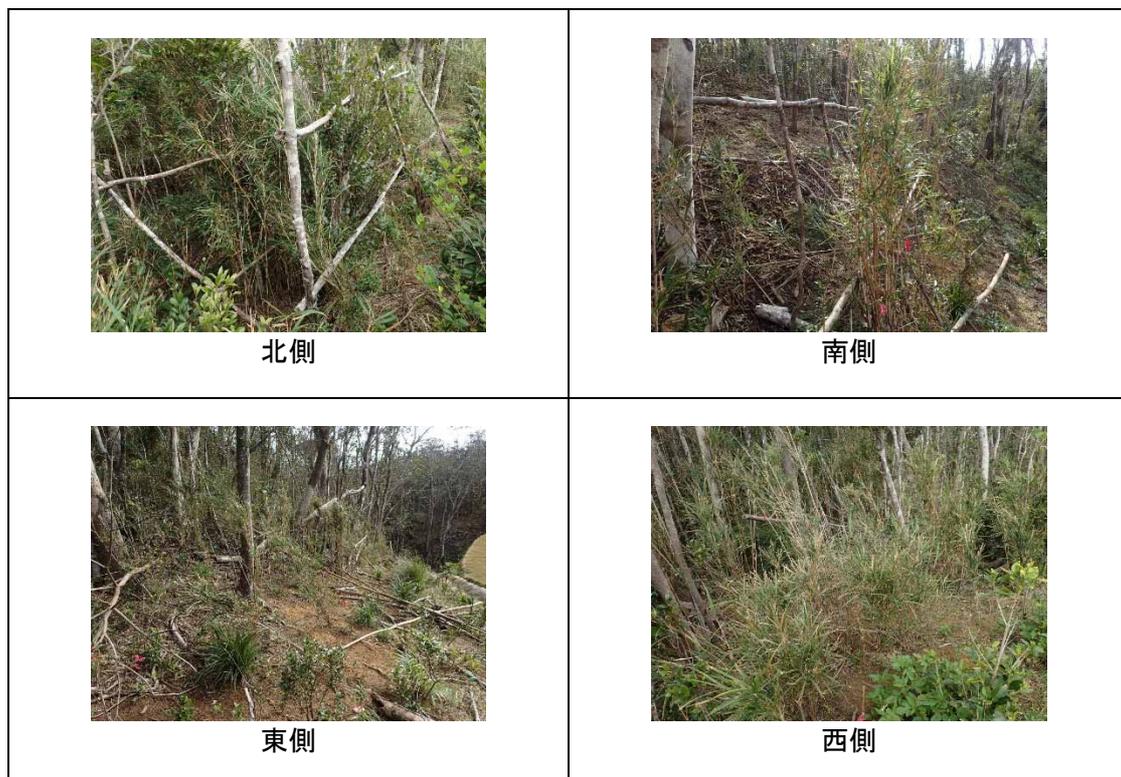


図 6.1.3-68 マント群落・ソデ群落の調査地状況 (N-1 (b)) 平成 30 年度冬季

表 6.1.3-45(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果 (N-1(b))

調査年月	N-1(b) マント群落・ソデ群落形成地				北側				南側				東側				西側				出現回数
	H30年度																				
	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12	
方位	NW	NW	NW	NW	N	N	N	N	-	-	-	-	N	N	N	N	-	-	-	-	
傾斜角度 (°)	40	40	40	40	15	15	15	15	-	-	-	-	5	5	5	5	-	-	-	-	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	2×4	2×4	2×4	2×4	3×1.5	3×1.5	3×1.5	3×1.5	1.5×3.5	1.5×3.5	1.5×3.5	1.5×3.5	2×4	2×4	2×4	2×4	-	-	-	-	
高木層 (T1) の高さ (m)	8.0	8.0	8.0	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	8.0	8.0	8.0	8.0	-	-	-	-	
高木層 (T1) の植被率 (%)	30	30	30	30	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10	10	-	-	-	-	
高木層 (T1) の出現数 (種)	3	3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	
亜高木層 (T2) の高さ (m)	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	-	-	-	-	5.0	5.0	5.0	5.0	-	-	-	-	
亜高木層 (T2) の植被率 (%)	10	10	10	10	10	10	10	10	-	-	-	-	10	15	15	15	-	-	-	-	
亜高木層 (T2) の出現数 (種)	2	2	2	1	1	1	1	1	-	-	-	-	3	2	2	2	-	-	-	-	
低木層 (S) の高さ (m)	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	-	-	-	-	
低木層 (S) の植被率 (%)	30	30	30	40	20	25	25	25	40	45	45	30	40	40	40	40	-	-	-	-	
低木層 (S) の出現数 (種)	3	3	3	4	3	3	2	3	3	3	3	3	3	4	3	3	-	-	-	-	
草本層 (H) の高さ (m)	1.5	1.5	1.5	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	
草本層 (H) の植被率 (%)	25	30	30	25	5	10	10	10	15	20	20	15	10	20	20	20	-	-	-	-	
草本層 (H) の出現数 (種)	24	31	27	34	11	17	19	15	17	19	19	20	23	29	30	33	-	-	-	-	
出現種数 (種)	28	33	30	35	13	18	20	17	19	21	21	22	23	30	32	35	-	-	-	-	
高木層 (T1)																					
T1.1 ヒメズリハ	1・1	1・1	1・1	1・1									1・1	1・1	1・1	1・1					
T1.2 スダジイ(イタジイ)	1・1	1・1	1・1	1・1																	
T1.3 モッコク	1・1	+	+	+																	
亜高木層 (T2)																					
T2.1 イスノキ	1・1	1・1	1・1	1・1									1・2	1・2	1・2	1・2					
T2.2 シロミミズ					1・1	1・1	1・1	1・1													
T2.3 タイミンタチバナ													1・2	1・2	1・2	1・2					
T2.4 フカノキ	+	+	+																		
T2.5 シラタマカズラ													+								
低木層 (S)																					
S.1 リュウキュウチク (移植株)	+	+2	+2	1・2	1・2	2・2	2・2	2・2	3・4	3・4	3・4	2・3	3・4	3・4	3・4	3・4					
S.2 イスノキ	1・1	1・1	1・1	1・1					+	1・1	1・2	1・2		+	+	+					
S.3 スダジイ(イタジイ)	1・1	1・1	1・1	1・1	1・2	1・2	1・2	1・2													
S.4 カクレミノ									+	+	+	+	+								
S.5 リュウキュウチク	1・1	1・1	1・1	1・1																	
S.6 ギョクシンカ														+	+	+					
S.7 シラタマカズラ													+	+							
S.8 フカノキ				+																	
S.9 ヒメズリハ					+																
S.10 ハナガサノキ						+															
S.11 ヤンバルミズバイ								+													
草本層 (H)																					
H.1 タイミンタチバナ	+	+	+	+	+	+2	+2	+2	+2	+2	+2	1・2	+	+	+	+					
H.2 スダジイ(イタジイ)	+	+	+	+	+	+2	+2	+	+	+	+	+	+	+	+	+					
H.3 シラタマカズラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+2	+2	+2	+	+	+	+					
H.4 コバンモチ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+2	+2					
H.5 オキナフサルトリイバラ		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+					
H.6 ササバサンキライ	+	+	+	+	+		+		+	+	+	+	+	+	+	+					
H.7 ヤマヒハツ	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+		+	+	+					
H.8 ササクサ	+2	1・2	1・2	1・2					+2	1・2	1・2	1・2	1・2	2・2	2・2	2・2					
H.9 シンエダウチホングウシダ	+	+	+	+		+	+	+					+	+	+	+					
H.10 イヌマキ	+	+	+	+					1・1	1・1	1・1		+2	+	+	+					
H.11 クロガヤ	+	+	+	+					+	+	+	+2	+	+	+	+					
H.12 アデク	+	+	+	+					+	+	+	+	+	+	+	+					
H.13 リュウキュウモチ	+	+	+	+		+	+	+						+	+	+					
H.14 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)		+	+	+	+		+	+					+	+	+	+					
H.15 リュウキュウチク (移植株)	2・3	2・3	2・3	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2													
H.16 イジュ	+	+	+	+2					+	+	+	+									
H.17 リュウキュウチク	+	+	+	+									+	+	+	+2					
H.18 アカメガシワ		+	+	+				+					+	+	+	+					
H.19 ハナガサノキ		+		+	+	+	+	+					+	+							
H.20 カクレミノ					+	+	+	+					+	+	+	+					

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。  
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かゝつ状に分布, 4: かゝつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-45(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(b))

調査年月	N-1(b) マント群落・ソデ群落形成地				北側				南側				東側				西側				出現回数
	H30年度				H30年度				H30年度				H30年度								
	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12					
方位	NW	NW	NW	NW	N	N	N	N	-	-	-	-	N	N	N	N					
傾斜角度 (°)	40	40	40	40	15	15	15	15	-	-	-	-	5	5	5	5					
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	2×4	2×4	2×4	2×4	3×1.5	3×1.5	3×1.5	3×1.5	1.5×3.5	1.5×3.5	1.5×3.5	1.5×3.5	2×4	2×4	2×4	2×4					
高木層(T1)の高さ (m)	8.0	8.0	8.0	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	8.0	8.0	8.0	8.0					
高木層(T1)の植被率 (%)	30	30	30	30	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10	10					
高木層(T1)の出現数 (種)	3	3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1					
亜高木層(T2)の高さ (m)	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	-	-	-	-	5.0	5.0	5.0	5.0					
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	10	10	10	10	10	10	-	-	-	-	10	15	15	15					
亜高木層(T2)の出現数 (種)	2	2	2	1	1	1	1	1	-	-	-	-	3	2	2	2					
低木層(S)の高さ (m)	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0					
低木層(S)の植被率 (%)	30	30	30	40	20	25	25	25	40	45	45	30	40	40	40	40					
低木層(S)の出現数 (種)	3	3	3	4	3	3	2	3	3	3	3	3	3	4	3	3					
草本層(H)の高さ (m)	1.5	1.5	1.5	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	1.0					
草本層(H)の植被率 (%)	25	30	30	25	5	10	10	10	15	20	20	15	10	20	20	20					
草本層(H)の出現数 (種)	24	31	27	34	11	17	19	15	17	19	19	20	23	29	30	33					
出現種数 (種)	28	33	30	35	13	18	20	17	19	21	21	22	23	30	32	35					
草本層(H)																					
H.21 イスノキ									+	+	+	+	+	+	+	+				8	
H.22 オオバギ	+	+	+	+	+	+	+													7	
H.23 タブノキ	+	+	+	+										+	+	+				7	
H.24 ヒメスズリハ			+	+						+	+	+	+	+						7	
H.25 ベニバナボロギク	+	+		+		+	+												+	6	
H.26 ムツチャガラ		+	+						+	+	+	+								6	
H.27 ハゼノキ		+		+									+	+	+	+				6	
H.28 ヒサカキ						+	+	+						+	+					5	
H.29 シロダモ	+	+	+	+																4	
H.30 ヤマグワ	+	+	+	+																4	
H.31 インドシャリンバイ	+			+												+	+			4	
H.32 シバヤブニッケイ	+									+	+	+								4	
H.33 エダウチクジャク									+2	+2	+2	+2								4	
H.34 シロミミズ									+	+	+	+								4	
H.35 マンリョウ													+	+	+	+				4	
H.36 シマミサオノキ													+	+	+	+				4	
H.37 クロヘゴ													+	+	+	+				4	
H.38 ナカハラクロキ													+	+	+	+				4	
H.39 ギイマ	+	+	+																	3	
H.40 クロバイ	+	+	+																	3	
H.41 エゴノキ	+															+	+			3	
H.42 シバ		+	+	+																3	
H.43 シロノセンダングサ		+	+	+																3	
H.44 ウスベニニガナ						+	+	+												3	
H.45 キキョウラン																+	+	+		3	
H.46 フカノキ		+		+																2	
H.47 モッコク		+		+																2	
H.48 ツグモチ				+															+	2	
H.49 オニタビラコ				+															+	2	
H.50 ニワゼキショウ				+															+	2	
H.51 チチヨグサモドキ				+															+	2	
H.52 ヤンバルミミズバイ						+	+													2	
H.53 ホシダ						+	+													2	
H.54 オオアブラガヤ										+	+									2	
H.55 コバナヒメハギ													+			+				2	
H.56 ホラシノブ																+	+			2	
H.57 ギョクシンカ									+											1	
H.58 アオノクマタケラン																+				1	

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南側、東側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.1.3-46 に、調査地点の調査地状況を図 6.1.3-69 に示した。

北側は、草丈 0.3m、植被率 45~95%、出現種 3~13 種で、シバが優占していた。

南側は、草丈 0.2~0.3m、植被率 100%、出現種 1~4 種で、シバが優占していた。

東側は、草丈 0.4~0.5m、植被率 95~100%、出現種 8~11 種で、シバが優占していた。

西側は、草丈 0.5~0.8m、植被率 100%、出現種 6~7 種で、シバが優占していた。

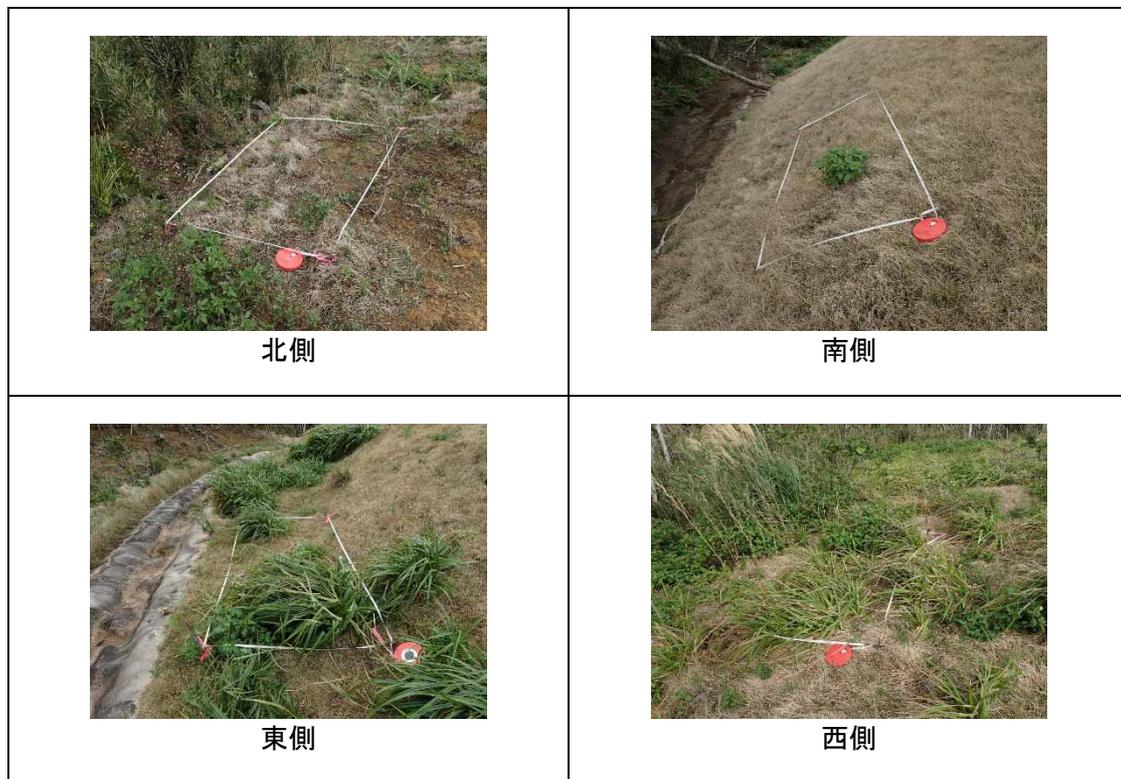


図 6.1.3-69 無障害物帯の調査地状況(N-1(b)) 平成30年度冬季

表 6.1.3-46 無障害物帯形成地の植生調査結果 (N-1(b))

N-1(b) 無障害物帯	北側				南側				東側				西側				出現回数
	H30年度								H30年度								
	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12	6/1	9/14	10/27	2/12	
調査年月日																	
方位	N	N	N	N	S	S	S	S	-	-	-	-	-	-	-	-	
傾斜角度 (°)	5	5	5	5	45	45	45	45	-	-	-	-	-	-	-	-	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	
草本層(H)の高さ (m)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	
草本層(H)の植被率 (%)	95	70	45	50	100	100	100	100	95	100	100	100	100	100	100	100	
出現種数 (種)	8	10	3	13	1	2	2	4	8	9	8	11	7	6	6	6	
草本層(H)																	
H.1 シバ	5・5	4・4	3・3	3・3	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	16
H.2 シロノセンダングサ				1・2		1・1	1・1	1・1	+	+	+	+2	+2	2・2	2・2	2・2	12
H.3 ベニバナボロギク	+2	+		+2					+	+		+	+				8
H.4 オオブラガヤ									1・1	2・2	2・2	2・3	3・3	3・4	3・4	3・4	8
H.5 オオアレチノギク	+	+	+						+	+2	+	+2					7
H.6 ハマサルトリイバラ				+									+	+2	1・2	+2	5
H.7 ハマスゲ									2・2	2・2	2・2	1・2					4
H.8 ギョウギシバ													2・2	+2	+2	+	4
H.9 ニワゼキショウ	+	+		+2													3
H.10 ダンドボロギク	+			+2						+							3
H.11 ヒサカキ		+2	+2	1・1													3
H.12 ヤハズソウ									+	1・1	1・1						3
H.13 コマツヨイグサ									+		+2	+					3
H.14 ササクサ	+	+															2
H.15 リュウキュウモチ	+	+															2
H.16 ホシダ	+			+													2
H.17 ツゲモチ		+		+													2
H.18 コバナヒメハギ									+		+						2
H.19 コメツブウマゴヤシ									+			+					2
H.20 オニタビラコ											+	+					2
H.21 カタバミ															+	+	2
H.22 タチスズメノヒエ		+															1
H.23 ヤマヒハツ		+															1
H.24 ホウキギク				+													1
H.25 インチンナズナ(カラクサナズナ)				+													1
H.26 チチコグサ				+													1
H.27 リュウキュウチク				+													1
H.28 ウスベニニガナ												+					1
H.29 ヤハズエンドウ(カラスノエンドウ)												+					1
H.30 ヒナギキョウ													+				1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。  
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かべつ状に分布, 4: かべつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

f) N-4.1

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-47 に、調査地の状況を図 6.1.3-70 に示した。

南東側及び西側においては、樹高 2.5～3.5m の低木層、草本層の 2 階層に分化しているほか、北側及び南側においては、草丈 2.0m の草本層の 1 階層にそれぞれ分化していた。

種数は 21～31 種の生育を確認した。

低木層は、樹高 2.5～3.5m、植被率 7～60%、出現種数 1～11 種であった。

草本層は、草丈 1.0～2.0m、植被率 50～95%、出現種数 22～31 種であった。

北側は、ススキが優占するほか、コゴメスゲも高い被度を示した。

南側は、草本類のススキやコゴメスゲが優占するほか、木本類ではホルトノキ被度が高くなっていった。

南東側は、木本類のシロダモが生長し、低木層となったほか、草本層はススキが優占していた。

西側は、低木層が生長し、ホルトノキ、ギンネムの被度が高くなり、樹林地への遷移(マント群落の形成)が進行していた。

全地点において、マント群落・ソデ群落の形成が確認された。

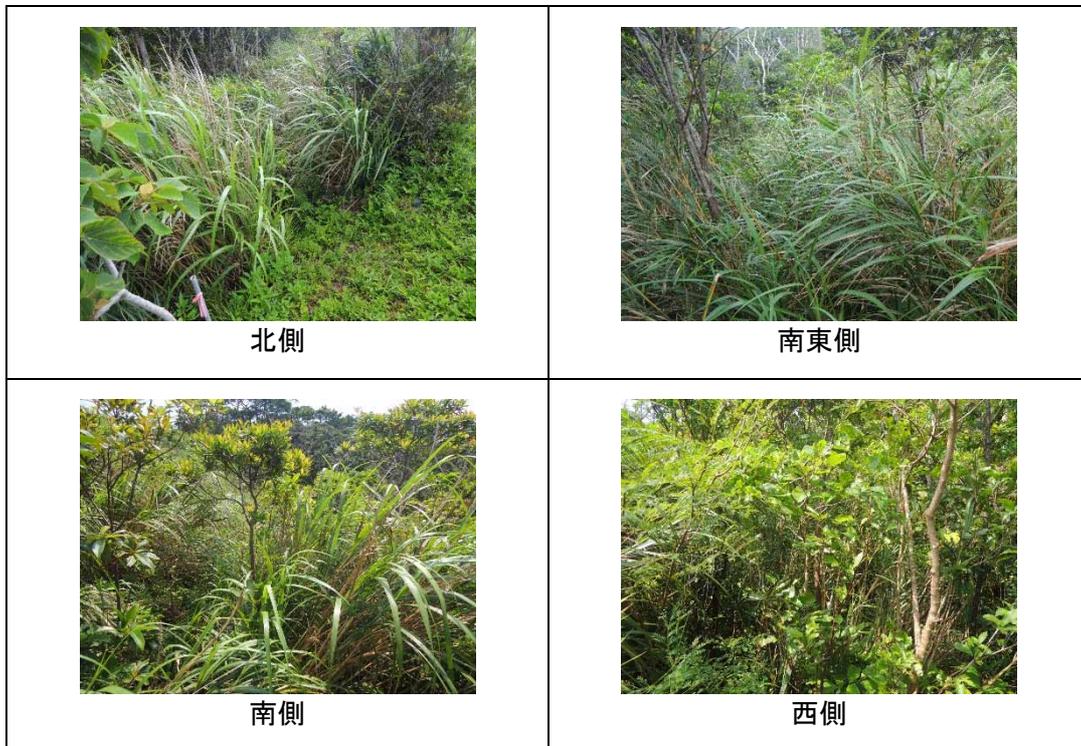


図 6.1.3-70 マント群落・ソデ群落の調査地状況(N-4.1)平成 30 年度夏季

表 6.1.3-47(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.1)

調査年月日	N-4.1 マント群落・ソデ群落形成地		北側		南側		南東側		西側		出現回数
			H30年度		H30年度		H30年度		H30年度		
			5/8	7/26	5/8	7/26	5/8	7/26	5/8	7/26	
海拔 (m)			176	176	174	174	172	172	170	170	
方位			N	N	SE	SE	S	S	W	W	
傾斜角度 (°)			20	20	15	15	45	45	20	20	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )			4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
低木層(S)の高さ (m)			-	-	-	-	2.5	2.5	3.5	3.5	
低木層(S)の植被率 (%)			-	-	-	-	7	7	60	60	
低木層(S)の出現数 (種)			-	-	-	-	1	1	10	11	
草本層(H)の高さ (m)			2.0	2.0	2.0	2.0	1.8	1.8	1.0	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)			90	90	90	90	90	95	50	60	
草本層(H)の出現数 (種)			22	21	31	29	25	25	24	22	
出現種数 (種)			22	21	31	29	25	25	26	26	
低木層(S)											
S.1 シロダモ							1・1	1・1			2
S.2 ススキ									3・3	3・3	2
S.3 ギンネム(ギンゴウカン)									2・2	2・2	2
S.4 ホルトノキ									2・2	2・2	2
S.5 カキバカンコノキ									1・1	1・1	2
S.6 ホソバムクイヌビワ									1・1	1・1	2
S.7 リュウキュウチク									+	1・2	2
S.8 エゴノキ									+	+	2
S.9 オオムラサキシキブ									+	+	2
S.10 シマイズセンリョウ									+	+	2
S.11 ヤマグワ									+		1
S.12 シマウリノキ										+	1
S.13 タブノキ										+	1
草本層(H)											
H.1 ススキ			4・5	4・4	4・4	4・4	4・4	4・5	1・2	1・2	8
H.2 コゴメスゲ			3・4	3・3	2・2	2・2	2・3	2・3	+	+	8
H.3 ホシダ			+2	1・2	1・2	1・2	+2	1・2	1・2	2・2	8
H.4 リュウキュウチク			+	+	+2	+2	1・2	1・2	+	+	8
H.5 リュウキュウテイカズラ			+	+	+2	+	+	+	+	+	8
H.6 ハイシロノセンダングサ(ハイアウユキセンダングサ)			+2	+2	+	+		+	+	+	7
H.7 コンロンカ			+	+2	+		+2	+	+	1・2	7
H.8 シマイズセンリョウ			1・2	1・2			+	+	1・2	1・2	6
H.9 エダウチヂミザサ			+2	+2		+2			+	+	6
H.10 ホソバムクイヌビワ			+	+			1・1	1・1	+	+	6
H.11 アカメガシワ			+	+	+	+	+	+			6
H.12 ギンネム(ギンゴウカン)			+	+	+	+	+	+			6
H.13 リュウキュウチク (移植株)			+	+	+	+	+	+			6
H.14 イヌビワ			+	+	+	+			+	+	6
H.15 オオムラサキシキブ			+	+	+	+			+	+	6
H.16 シロダモ					+	+	2・2	2・2	+	+	6
H.17 シラタマカズラ			+	+	+		+	+			5
H.18 オキナワサルトリイバラ			+		+	+	+	+			5
H.19 タブノキ					1・1	1・1	+2	+	+		5
H.20 リュウキュウマノスズクサ					+		+	+	+	+	5
H.21 カキバカンコノキ						+	+	+	+	+	5
H.22 アオノクマタケラン			1・2	1・2					+	+	4
H.23 トベラ			+	+	1・1	1・1					4
H.24 カクレミノ			+	+	+	+					4
H.25 クチナシ			+		+	+				+	4

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-47(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.1)

調査年月日	N-4.1 マント群落・ソデ群落形成地		北側		南側		南東側		西側		出現回数
			H30年度		H30年度		H30年度		H30年度		
			5/8	7/26	5/8	7/26	5/8	7/26	5/8	7/26	
海拔 (m)			176	176	174	174	172	172	170	170	
方位			N	N	SE	SE	S	S	W	W	
傾斜角度 (°)			20	20	15	15	45	45	20	20	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )			4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
低木層(S)の高さ (m)			-	-	-	-	2.5	2.5	3.5	3.5	
低木層(S)の植被率 (%)			-	-	-	-	7	7	60	60	
低木層(S)の出現数 (種)			-	-	-	-	1	1	10	11	
草本層(H)の高さ (m)			2.0	2.0	2.0	2.0	1.8	1.8	1.0	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)			90	90	90	90	90	95	50	60	
草本層(H)の出現数 (種)			22	21	31	29	25	25	24	22	
出現種数 (種)			22	21	31	29	25	25	26	26	
草本層(H)											
H. 26 スダジイ(イタジイ)					1・2	+・2	+	+			4
H. 27 ホルトノキ					2・2	2・2			+	+	4
H. 28 ヤマグワ			+	+					+		3
H. 29 ヘクソカズラ						+	+				3
H. 30 リュウキュウマツ						+	+				3
H. 31 シシアクチ							+	+	+		3
H. 32 イスノキ			+	+							2
H. 33 コバナヒメハギ				+				+			2
H. 34							1・1	1・1			2
H. 35 ツボクサ							+	+			2
H. 36 マンリョウ							+	+			2
H. 37 タイミンタチバナ							+			+	2
H. 38 ギイマ					1・1	1・1					2
H. 39 ヒメユズリハ					+・2	+・2					2
H. 40 インドシャリンバイ					+	+					2
H. 41 エゴノキ					+	+					2
H. 42 ゴンズイ					+	+					2
H. 43 シバヤブニツケイ					+	+					2
H. 44 ショウベンノキ					+	+					2
H. 45 ケホンダ									2・2	2・2	2
H. 46 ヒカゲヘゴ									1・1	1・1	2
H. 47 リュウキュウイチゴ							+				1
H. 48 サネカズラ(ビナンカズラ)					+						1
H. 49 シロミミズ					+						1
H. 50 ツルグミ									+		1
H. 51 ヒラミレモン(シークワシャー)									+		1
H. 52 ハゼノキ										+	1

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: カベツト状に分布, 4: カベツトに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南東側、南側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.1.3-48 に示し、調査地の状況を図 6.1.3-71 に示した。

無障害物帯は、平成 22 年度末に樹木の伐採が行われた後、地形が現状のまま保全されていたことから表土が維持され、埋土種子からの発芽による実生株や周辺からの草本類の侵入等が確認されている。以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、草丈 0.5m、植被率 95%、出現種 18~20 種であった。草本類のハイシロノセンダングサが優占するほか、コゴメスゲ、ホシダも高い被度を示した。

南側は、草丈 1.6m、植被率 80~85%、出現種 19~22 種であった。草本類のススキが優占するほか、コゴメスゲ等が生育していた。

南東側は、草丈 1.8m、植被率 100%、出現種 16~20 種であった。草本類のススキが優占するほか、ホシダ、コゴメスゲ等が生育していた。

西側は、草丈 0.8~1.0m、植被率 100%、出現種 6~7 種であった。草本類のチガヤが優占するほか、ススキ、ハイシロノセンダングサ等が生育していた。

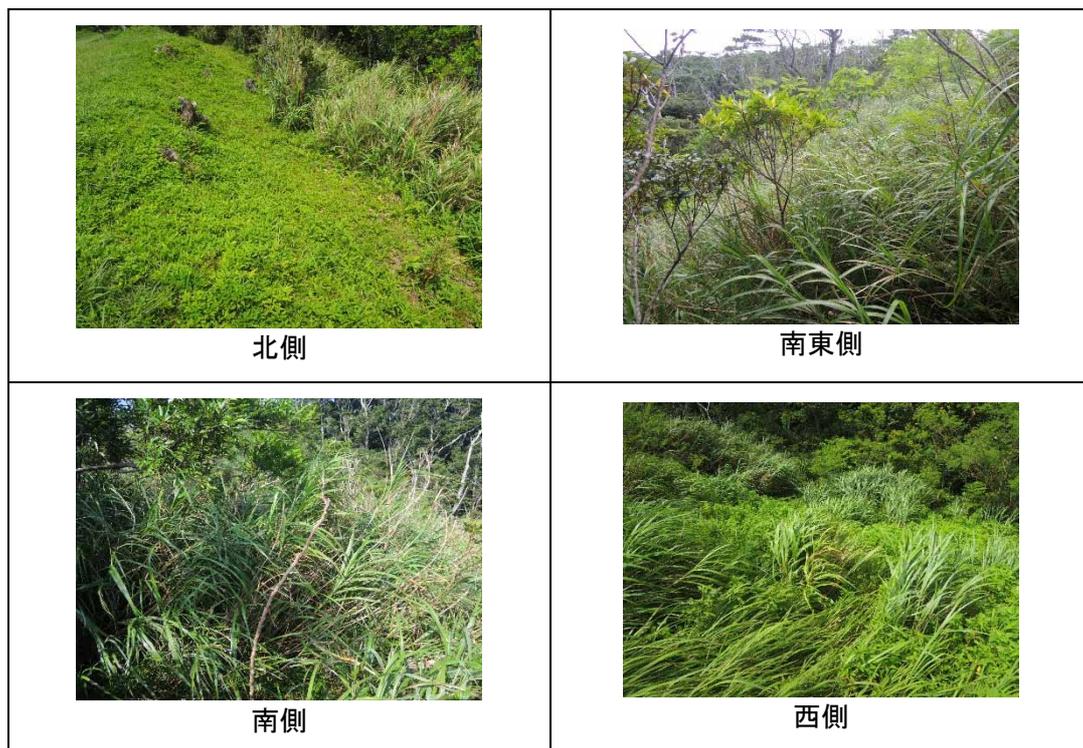


図 6.1.3-71 無障害物帯の調査地状況(N-4.1) 平成 30 年度夏季

表 6.1.3-48 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-4.1)

N-4.1 無障害物帯形成地	北側		南東側		南側		西側		出現回数
	H30年度		H30年度		H30年度		H30年度		
	5/8	7/26	5/8	7/26	5/8	7/26	5/8	7/26	
調査年月日									
海拔 (m)	178	178	175	175	176	176	175	175	
方位	N	N	SSW	SSW	SE	SE	W	W	
傾斜角度 (°)	5	5	20	20	30	30	30	30	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	1.8	1.8	1.6	1.6	0.8	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	95	95	100	100	80	85	100	100	
出現種数 (種)	20	18	20	16	19	22	7	6	
草本層(H)									
H.1 ホシダ	2・3	2・3	4・4	4・4	1・2	1・2	+	+	8
H.2 ススキ	+	+	4・5	4・5	4・4	4・4	1・2	2・2	8
H.3 コゴメスゲ	3・4	3・4	3・3	3・3	3・3	3・3	+		7
H.4 ギンゴウカン(ギンネム)	+	+	+	+	+	+	+		7
H.5 ハイシロノセンダングサ	4・4	4・4			+	+	2・2	2・2	6
H.6 リュウキュウテイカズラ	+	+	+		+	+			5
H.7 イヌビワ	+	+			+	+			4
H.8 チガヤ	+	+					5・5	5・5	4
H.9 シロダモ			+	+	1・2	1・2			4
H.10 アカメガシワ			+	+	+2	+			4
H.11 カキバカンコノキ			+	+	+	+			4
H.12 タブノキ			+	+	+	+			4
H.13 ヒメユズリハ			+	+	+	+			4
H.14 アメリカハマグルマ					+2	+2	+2	1・2	4
H.15 ツボクサ	+2	+			+				3
H.16 エダウチヂミザサ	+2	+				+			3
H.17 オキナワサルトリイバラ			+		+	+			3
H.18 リュウキュウチク	+	+							2
H.19 コバナヒメハギ	+	+							2
H.20 オオムラサキシキブ	+	+							2
H.21 ナガバハリフタバ	+	+							2
H.22 オニタビラコ	+	+							2
H.23 キキョウラン	+	+							2
H.24 コブナグサ	+	+							2
H.25 コンロンカ	+					+			2
H.26 ヘクソカズラ	+					+			2
H.27 ホルトノキ(モガシ)			1・1	1・1					2
H.28 シマイズセンリョウ			+2	+					2
H.29 ホウロクイチゴ			+	+					2
H.30 スダジイ(イタジイ)			+	+					2
H.31 イスノキ			+	+					2
H.32 エゴノキ			+	+					2
H.33 カクレミノ			+	+					2
H.34 ホソバムクイヌビワ					1・1	1・1			2
H.35 ヤブニッケイ					+	+			2
H.36 インドシャリンバイ					+	+			2
H.37 ヤハズソウ					+	+			2
H.38 カタバミ	+								1
H.39 ハナガサノキ		+							1
H.40 アオノクマタケラン			+						1
H.41 トサカメオトラン			+						1
H.42 シバヤブニッケイ						+			1
H.43 リュウキュウイチゴ								+	1

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かべッ状に分布, 4: かべッ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

g) N-4.2

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-49 に、調査地の状況を図 6.1.3-72 に示した。

東側においては、樹高 4.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に分化しているほか、西側においては、樹高 2.0m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。

種数は 20～31 種の生育を確認した。

亜高木層は、樹高 4.0m、植被率 25%、出現種数 3 種であった。

低木層は、樹高 2.0～2.5m、植被率 40～90%、出現種数 6～10 種であった。

草本層は、草丈 0.5～1.0m、植被率 50～70%、出現種数 16～27 種であった。

東側は、工事前からリュウキュウチクが生育し、既存のマント群落・ソデ群落が形成されており、木本類のホルトノキやシロダモ、スタジイの被度が高くなり、樹林地への遷移が進行していた。

西側は、草本類のススキ、ホシダ等が優占しており、低木層で木本類のアカメガシワ、ホルトノキの被度が高くなっており、マント群落・ソデ群落の形成が確認された。



図 6.1.3-72 マント群落・ソデ群落の調査地状況(N-4.2)平成 30 年度夏季

表 6.1.3-49(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.2)

調査年月日	東側		西側		出現回数
	H30年度		H30年度		
	5/8	7/25	5/8	7/25	
方位	E	E	W	W	
傾斜角度 (°)	3	3	-	-	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	
亜高木層(T2)の高さ (m)	4.0	4.0	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	25	25	-	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	3	3	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.0	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	90	90	40	45	
低木層(S)の出現数 (種)	9	8	6	10	
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	0.8	0.5	
草本層(H)の植被率 (%)	50	50	65	70	
草本層(H)の出現数 (種)	17	16	23	27	
出現種数 (種)	21	20	25	31	
亜高木層(T2)					
T2.1 ホルトノキ(モガシ)	2・2	2・2			2
T2.2 シロダモ	1・1	1・1			2
T2.3 リュウキュウチク	+・2	+・2			2
低木層(S)					
S.1 リュウキュウチク	5・5	5・5	1・2	1・2	4
S.2 スダジイ(イタジイ)	2・2	2・2			2
S.3 ササバサンキライ	+	+			2
S.4 トキワカモメツル	+	+			2
S.5 リュウキュウテイカカズラ	+	+			2
S.6 カクレミノ	+	+			2
S.7 ヒメユズリハ	+	+			2
S.8 ツルグミ	+	+			2
S.9 ススキ			3・3	3・3	2
S.10 リュウキュウチク (移植株)			1・2	1・2	2
S.11 ホルトノキ(モガシ)			1・1	1・1	2
S.12 アカメガシワ			1・1	1・1	2
S.13 タブノキ			+	+	2
S.14 ハゼノキ			+	+	2
S.15 ムベ	+				1
S.16 シバヤブニッケイ				+	1
S.17 イヌビロ				+	1
S.18 ヤマグワ				+	1
S.19 ゴンズイ				+	1
草本層(H)					
H.1 リュウキュウチク	1・2	1・2	+・2	+・2	4
H.2 シラタマカズラ	+・2	+・2	+	+	4
H.3 リュウキュウテイカカズラ	+	+	1・2	1・2	4
H.4 タブノキ	+	+	+	+	4
H.5 オキナワサルトリイバラ	+	+	+	+	4

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かべッ状に分布, 4: かべッ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-49(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.2)

調査年月日	東側		西側		出現回数
	H30年度		H30年度		
	5/8	7/25	5/8	7/25	
方位	E	E	W	W	
傾斜角度 (°)	3	3	-	-	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	
亜高木層(T2)の高さ (m)	4.0	4.0	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	25	25	-	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	3	3	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.0	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	90	90	40	45	
低木層(S)の出現数 (種)	9	8	6	10	
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	0.8	0.5	
草本層(H)の植被率 (%)	50	50	65	70	
草本層(H)の出現数 (種)	17	16	23	27	
出現種数 (種)	21	20	25	31	
草本層(H)					
H. 6 トキワカモメヅル	+	+	+		3
H. 7 ササクサ	+	+		+	3
H. 8 ケテイカカズラ	+	+		+	3
H. 9 ヒメユズリハ	+	+		+	3
H. 10 トベラ	+	+		+	3
H. 11 リュウキュウイチゴ	+		+	+	3
H. 12 スダジイ(イタジイ)	3・3	3・3			2
H. 13 オオバチヂミザサ	+	+			2
H. 14 アオノクマタケラン	+	+			2
H. 15 イタピカズラ	+	+			2
H. 16 ササバサンキライ	+	+			2
H. 17 ゴンズイ		+	+		2
H. 18 ホシダ			3・3	3・3	2
H. 19 コゴメスゲ			1・2	1・2	2
H. 20 ホラシノブ			1・2	1・2	2
H. 21 ハイシロノセンダングサ			1・2	+2	2
H. 22 アカメガシワ			+2	+2	2
H. 23 ススキ			+2	+2	2
H. 24 シバヤブニッケイ			+	+	2
H. 25 コシダ			+	+	2
H. 26 リュウキュウマツ			+	+	2
H. 27 イヌビワ			+	+	2
H. 28 ハナガサノキ			+	+	2
H. 29 ナガバカニクサ			+	+	2
H. 30 ヤハズソウ			+	+	2
H. 31 シロダモ	+				1
H. 32 ヤマグワ			+		1
H. 33 リュウキュウウマノスズクサ			+		1
H. 34 オオバギ				+	1
H. 35 コバナヒメハギ				+	1
H. 36 オオバイヌビワ				+	1
H. 37 キキョウラン				+	1

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、北側、東側、南東側、南側、西側の5ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.1.3-50 に示し、調査地の状況を図 6.1.3-73 に示した。

無障害物帯は、平成 25 年度に樹木の伐採を行い、盛土部分は張り芝が行われている。以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、草丈 0.2~0.3m、植被率 70~80%、出現種 14~18 種であった。芝張りされたシバが優先するほか、ハイシロノセンダングサ、チガヤ、ヤハズソウも高い被度を示した。

南側は、草丈 0.1~0.2m、植被率 100%、出現種 15~16 種であった。芝張りされたシバが優占するほか、ハイシロノセンダングサも高い被度を示した。

南東側は、第 1 草本層は草刈により喪失していた。第 2 草本層が高さ 0.4~0.5m、植被率 90%、出現種 9~12 種であった。チガヤ、ハイシロノセンダングサが高い被度で優先していた。

東側は、第 1 草本層が高さ 3.0m、植被率 10%、出現種 4 種で、ホルトノキ、ススキが優先していた。第 2 草本層が高さ 1.5m、植被率 90%、出現種 24~26 種で、リュウキュウチク、アカメガシワが高い被度で優先していた。

西側は、高さ 0.4m、植被率 25~40%、出現種 8~15 種であった。ハイシロノセンダングサが優先していた。西側では平成 29 年度秋季調査時よりイノシシによる掘り返しがみられ、シバの植被率が著しく低下している。

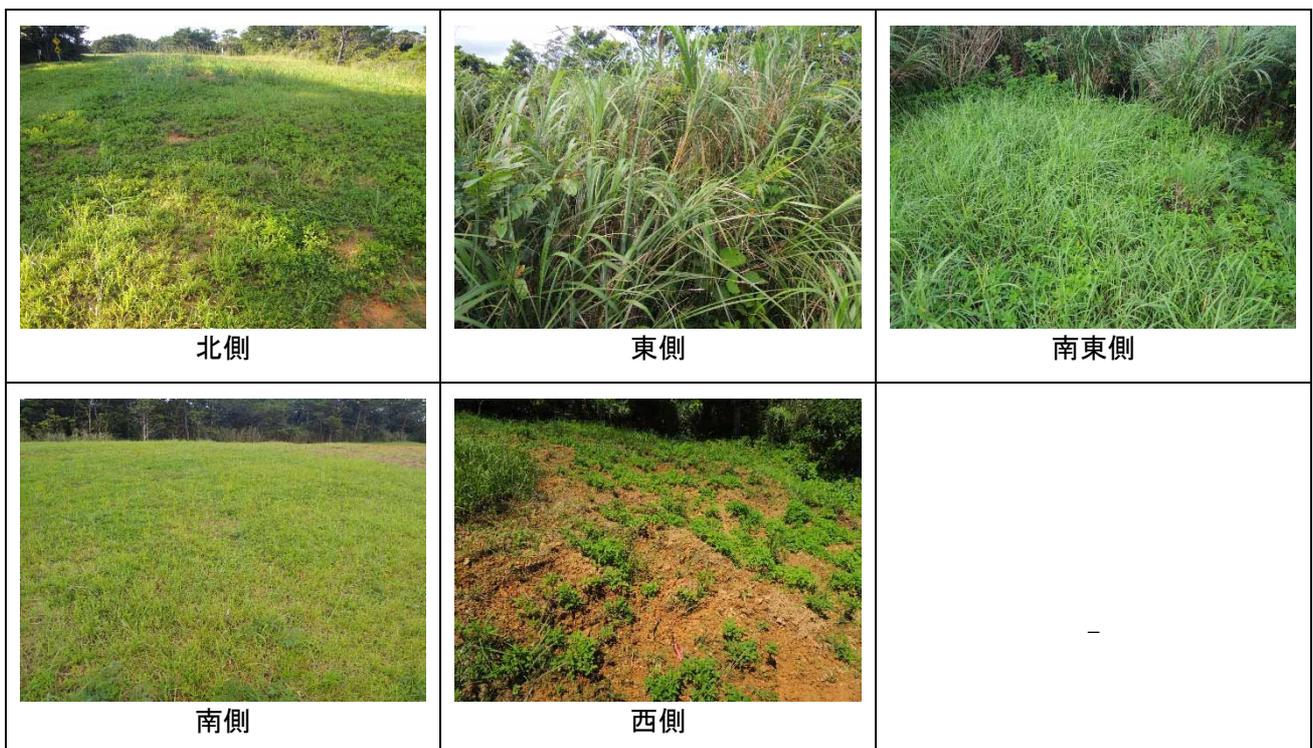


図 6.1.3-73 無障害物帯の調査地状況 (N-4.2) 平成 30 年度夏季

表 6.1.3-50(1) 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-4.2)

N-4.2 無障害物帯形成地	北側		南側		南東側		東側		西側		出現回数
	H30年度		H30年度		H30年度		H30年度		H30年度		
	5/8	7/25	5/8	7/25	5/8	7/25	5/8	7/25	5/8	7/25	
調査年月日											
海拔 (m)	175	175	173	173	171	171	172	172	167	167	
方位	S	S	W	W	E	E	-	-	W	W	
傾斜角度 (°)	10	10	2	2	3	3	-	-	30	30	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
草本層-1(H1)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	3.0	3.0	-	-	
草本層-1(H1)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	10	10	-	-	
草本層-1(H1)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	4	4	-	-	
草本層-2(H2)の高さ (m)	0.2	0.3	0.1	0.2	0.4	0.5	1.5	1.5	0.4	0.4	
草本層-2(H2)の植被率 (%)	70	80	100	100	90	90	90	90	40	25	
草本層-2(H2)の出現数 (種)	14	18	15	16	9	12	26	24	15	8	
出現種数 (種)	14	18	15	16	9	12	26	24	15	8	
草本層-1(H)											
H1.1 ホルトノキ(モガシ)							1・1	1・1			2
H1.2 ススキ							+2	1・2			2
H1.3 アカメガシワ							+	+			2
H1.4 ヒメズリハ							+	+			2
草本層-2(H)											
H2.1 ハイシロノセンダングサ(ハイアワユキセンダングサ)	2・2	3・3	2・2	2・2	3・3	3・3	+2	+2	3・3	2・2	10
H2.2 チガヤ	2・2	3・3		1・2	4・4	4・4			1・2	1・2	7
H2.3 ヤハズソウ	+2	2・2	1・2	1・2		+			+	+	7
H2.4 タチスズメノヒエ	+2	1・2		+	1・2	1・2			+	+	7
H2.5 シバ	3・3	3・3	5・5	5・5					+	+	6
H2.6 ギンネム(ギンゴウカン)			+	+	+	+	+	+			6
H2.7 コゴメスゲ			+	+			1・2	1・2	+	+	6
H2.8 イワダレソウ			+	+	+	+			+		5
H2.9 ホシダ					+	+2	1・2	2・2		+	5
H2.10 マルバダケハギ(ササハギ)	+	+	+	+							4
H2.11 アキノノゲシ				+	+	+			+		4
H2.12 イヌビワ					+	+	+2	+2			4
H2.13 コウライシバ		+	1・2	1・2							3
H2.14 ヒメジョオン		+	+						+		3
H2.15 リュウキュウマツ		+		+					+		3
H2.16 ホウキギク		+							+	+	3
H2.17 ヒメクゲ			+	+					+		3
H2.18 アブラスキ	+	+									2
H2.19 ニシヨモギ(ヨモギ)	+	+									2
H2.20 セイヨウタンボク	+	+									2
H2.21 コメツブウマゴヤシ	+	+									2
H2.22 キバナニワゼキショウ	+		+								2
H2.23 ツボミオオバコ(タチオオバコ)	+								+		2
H2.24 オニタビラコ		+							+2		2
H2.25 アゼガヤツリ			+	+2							2
H2.26 シオカゼテンツキ			+	+							2
H2.27 ナガバハリフタバ				+		+					2
H2.28 セイタカアワダチソウ					+	+					2
H2.29 ススキ							4・4	4・4			2
H2.30 リュウキュウチク							2・2	2・2			2
H2.31 アカメガシワ							1・2	1・2			2
H2.32 ヒメズリハ							1・2	1・2			2
H2.33 キキョウラン							+2	+2			2
H2.34 リュウキュウイチゴ							+	+			2
H2.35 オキナワサルトリイバラ							+	+			2

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。  
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-50(2) 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-4.2)

N-4.2 無障害物帯形成地	北側		南側		南東側		東側		西側		出現回数
	H30年度		H30年度		H30年度		H30年度		H30年度		
	5/8	7/25	5/8	7/25	5/8	7/25	5/8	7/25	5/8	7/25	
海拔 (m)	175	175	173	173	171	171	172	172	167	167	
方位	S	S	W	W	E	E	-	-	W	W	
傾斜角度 (°)	10	10	2	2	3	3	-	-	30	30	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
草本層-1(H1)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	3.0	3.0	-	-	
草本層-1(H1)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	10	10	-	-	
草本層-1(H1)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	4	4	-	-	
草本層-2(H2)の高さ (m)	0.2	0.3	0.1	0.2	0.4	0.5	1.5	1.5	0.4	0.4	
草本層-2(H2)の植被率 (%)	70	80	100	100	90	90	90	90	40	25	
草本層-2(H2)の出現数 (種)	14	18	15	16	9	12	26	24	15	8	
出現種数 (種)	14	18	15	16	9	12	26	24	15	8	
草本層-2(H)											
H2.36 シラタマカズラ							+	+			2
H2.37 トベラ							+	+			2
H2.38 ホルトノキ(モガシ)							+	+			2
H2.39 リュウキュウテйкаズラ							+	+			2
H2.40 タブノキ							+	+			2
H2.41 ホウロクイチゴ							+	+			2
H2.42 ケテйкаズラ							+	+			2
H2.43 ハゼノキ							+	+			2
H2.44 スダジイ(イタジイ)							+	+			2
H2.45 エダウチチヂミザサ							+	+			2
H2.46 カキバカンコノキ							+	+			2
H2.47 ヤマグワ							+	+			2
H2.48 シソ sp.	++										1
H2.49 ニワゼキショウ	+										1
H2.50 メドハギ		+									1
H2.51 イガガヤツリ		+									1
H2.52 ウスベニニガナ		+									1
H2.53 ソクシンラン			+								1
H2.54 ヒメコバソウ			+								1
H2.55 コバナヒメハギ						+					1
H2.56 シマイズセンリョウ							+				1
H2.57 タイミンタチバナ							+				1
H2.58 コマツヨイグサ									+		1

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
群度→5: かべつ状に分布, 4: かべつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

## 5) 工事による副次的影響を復元した箇所における植生状況

### (1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.1.3-51 に示した。

N-4 地区については、本年度夏季に調査を終了した。

表 6.1.3-51 調査期間一覧（平成 30 年度）

地点/季節	春季	夏季	秋季	冬季
N-4.1(西側、北西側の土砂置場)	平成 30 年 5 月 9 日	平成 30 年 7 月 31 日	-	-
N-4.2(南側、北側)	平成 30 年 5 月 10 日	平成 30 年 7 月 31 日	-	-
既存道路 北側作業ヤード	平成 30 年 5 月 29 日	平成 30 年 9 月 3 日	平成 30 年 11 月 22 日	平成 31 年 1 月 31 日
H 付近の作業ヤード	平成 30 年 5 月 29 日	平成 30 年 9 月 3 日	平成 30 年 11 月 30 日	平成 31 年 1 月 31 日
G 直近の作業ヤード	平成 30 年 5 月 29 日	平成 30 年 9 月 3 日	平成 30 年 11 月 22 日	平成 31 年 1 月 31 日

### (2) 調査方法

工事による副次的影響を復元した箇所における植生の回復状況について、写真撮影による記録を行った。

### (3) 調査地点

調査地点は図 6.1.3-74、図 6.1.3-75 に示した。

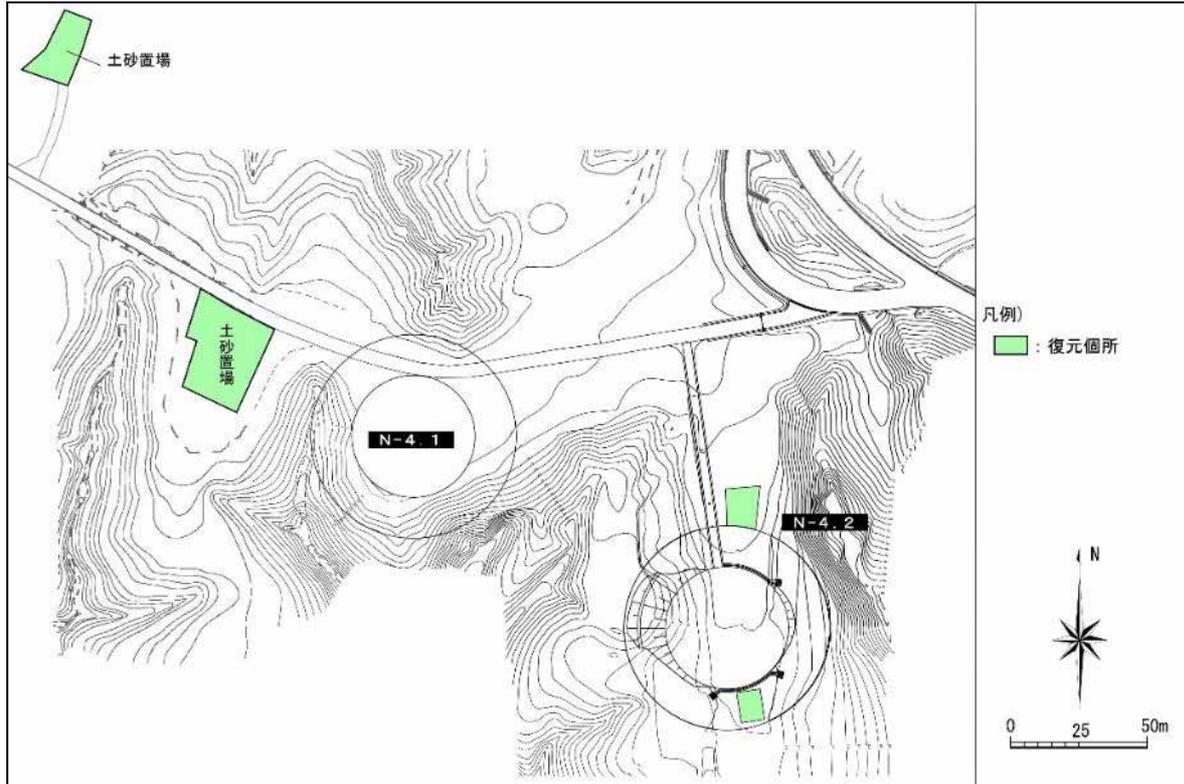


図 6.1.3-74 工事による副次的影響の復元箇所調査地点(N-4.1、N-4.2)

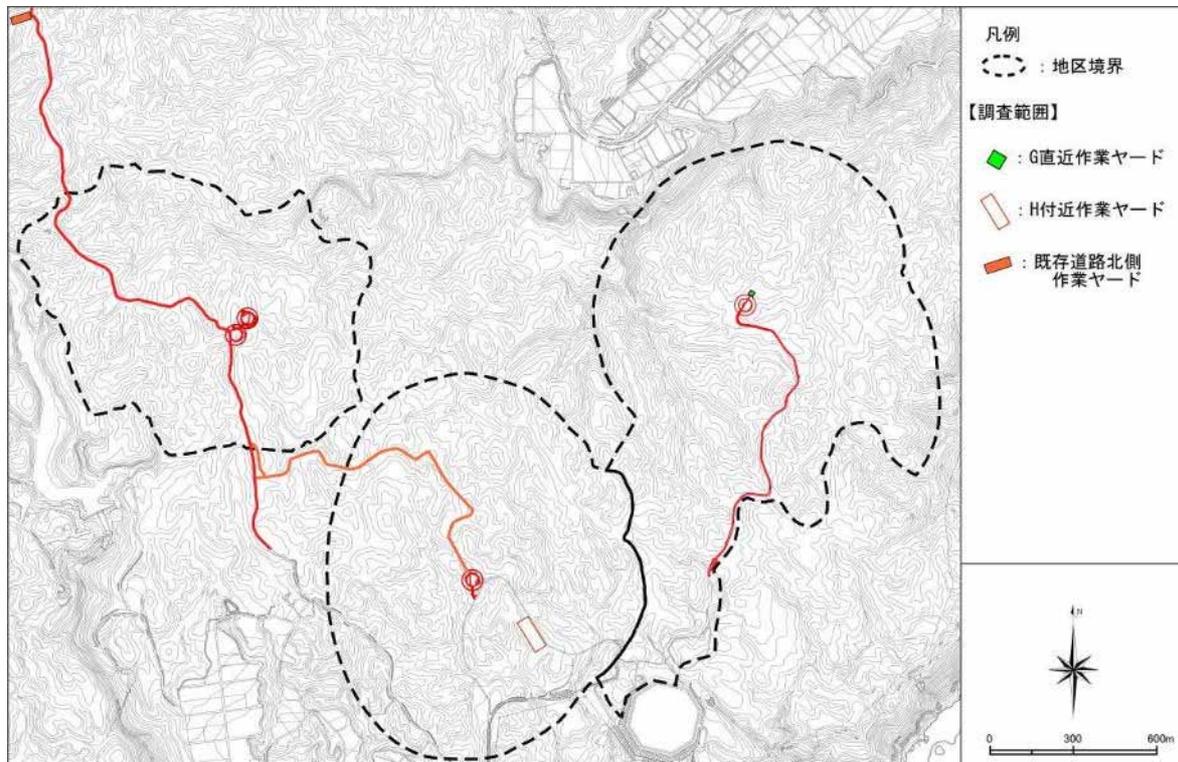


図 6.1.3-75 工事による副次的影響の復元箇所調査地点(作業ヤード)

(4) 調査結果

a) N-4.1(西側、北西側の土砂置場)

復元箇所は張芝が行われており、草丈0.5~1.0m程度の草地環境となっている。  
復元箇所の調査地状況を図 6.1.3-76、図 6.1.3-77 に示した。

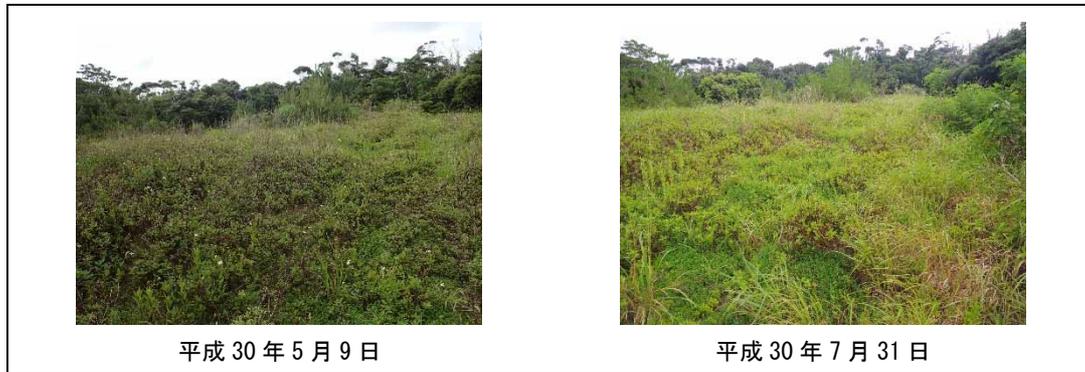


図 6.1.3-76 工事による副次的影響の復元箇所の状況(N-4.1北西側 土砂置き場)



図 6.1.3-77 工事による副次的影響の復元箇所の状況(N-4.1西側 土砂置き場)

b) N-4.2(南側、北側)

復元箇所は張芝が行われており、草丈0.2m程度の草地環境となっている。  
復元箇所の調査地状況を図 6.1.3-78、図 6.1.3-79 に示した。



図 6.1.3-78 工事による副次的影響の復元箇所の状況(N-4.2 北側)

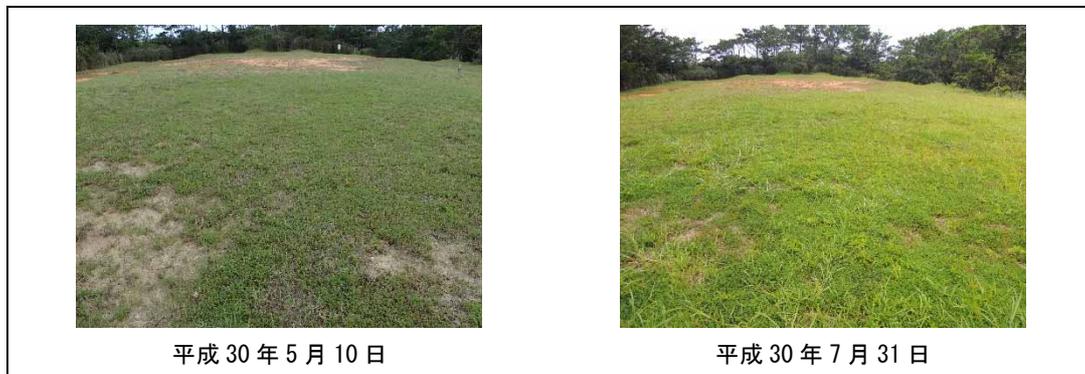


図 6.1.3-79 工事による副次的影響の復元箇所の状況(N-4.2 南側)

c) 既存道路北側作業ヤード

復元箇所は砕石敷工が行われている。平成 31 年 1 月時点において、道路改修等工事に伴い資材が搬入されており、植生は確認されなかった。

復元箇所の調査地状況を図 6.1.3-80 に示した。



図 6.1.3-80 工事による副次的影響の復元箇所の状況(既存道路北側作業ヤード)

d) H 付近の作業ヤード

復元箇所は砂利や残土があるため、赤土流出防止対策の浸食防止剤の吹付処理が行われている。平成 31 年 1 月時点において、ヤード南側の吹付処理箇所は草丈 0.4m 程度の草地環境となっているほか、ヤード北側は工事用道路の道路拡張工事に伴い、砂利等の資材が搬入されている。

復元箇所の調査地状況を図 6.1.3-81 に示した。

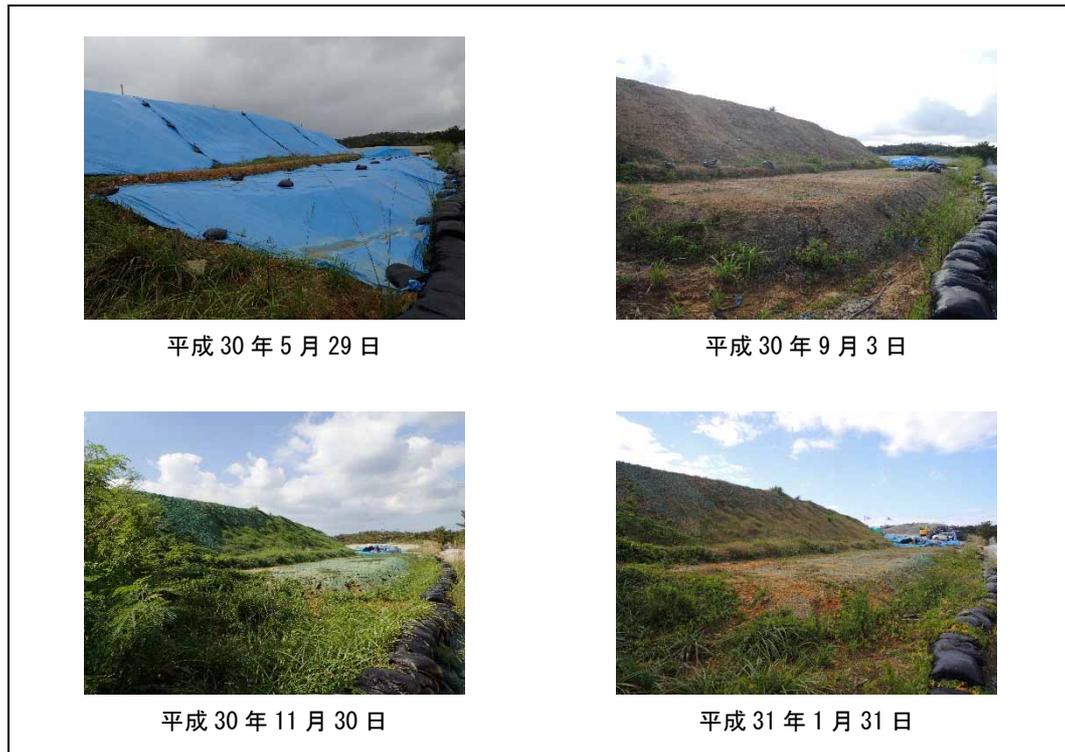


図 6.1.3-81(1) 工事による副次的影響の復元箇所の状況(H 付近の作業ヤード①)

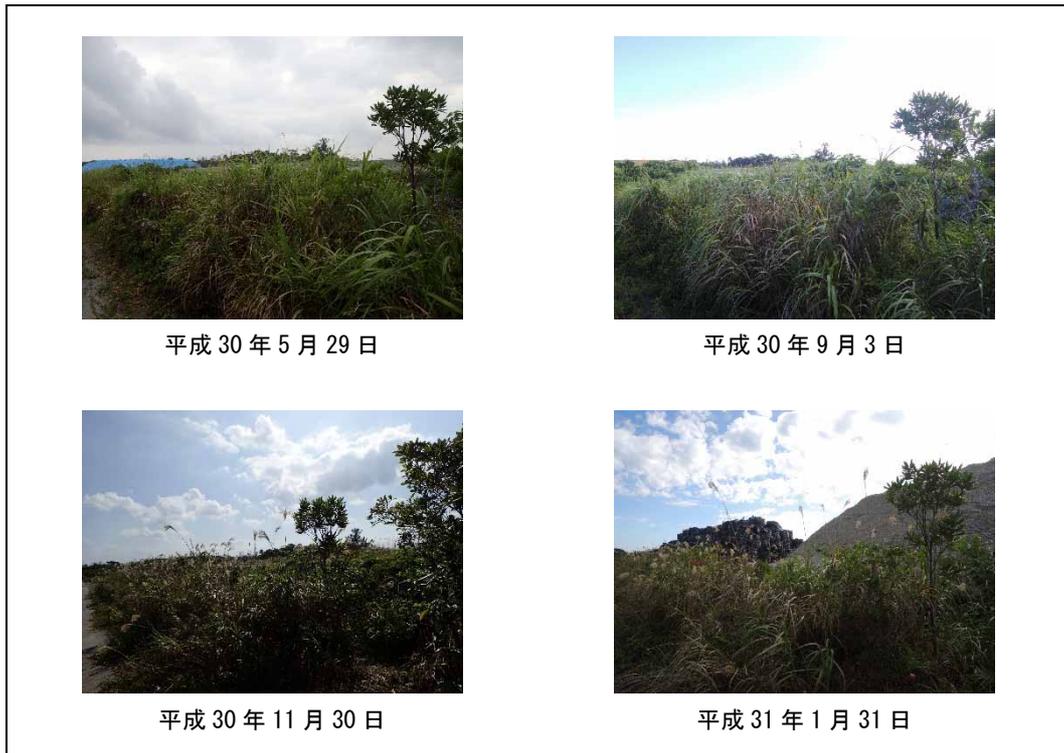


図 6.1.3-81(2) 工事による副次的影響の復元箇所の状況(H 付近の作業ヤード②)

e) G 直近の作業ヤード

復元箇所は、土壌流出防止対策のため、チップ材によるマルチングが行われている。平成 31 年 1 月時点において、草丈 0.1m 程度の草本が僅かに生育していた。

復元箇所の調査地状況を図 6.1.3-82 に示した。



図 6.1.3-82 工事による副次的影響の復元箇所の状況(G 直近の作業ヤード)